

“流域治水”の実践に向けて



令和5年9月20日

東北地方整備局

1. 令和5年7月15日からの 梅雨前線による大雨

令和5年7月15日からの梅雨前線による大雨に係る東北地方整備局管内の国管理河川の状況

- 東北12水系のうち、2水系で氾濫危険水位を超過。
- その他、1水系で避難判断水位を超過。

1. 河川出水状況(直轄河川)

○レベル4【氾濫危険水位超過】

- ・雄物川、子吉川(石沢川)

○レベル3【避難判断水位超過】

- ・子吉川(子吉川)、米代川

○レベル2【氾濫注意水位超過】

- ・最上川、北上川

2. 直轄ダム洪水調節状況

○直轄4ダムで洪水調節を実施

- ・玉川ダム(雄物川水系)、森吉山ダム(米代川水系)、湯田ダム(北上川水系)、御所ダム(北上川水系)

○直轄1ダムで特別防災操作を実施(玉川ダム) ※100m³/s⇒0m³/s

3. 避難指示等の実績(7月15日8:00現在)

○秋田県

・緊急安全確保(緊急レベル5)

秋田市、五城目町、八郎潟町、能代市、三種町、上小阿仁村

・避難指示(緊急レベル4)

男鹿市、潟上市、井川町、藤里町、八峰町、由利本荘市、北秋田市、大仙市、仙北市

○岩手県

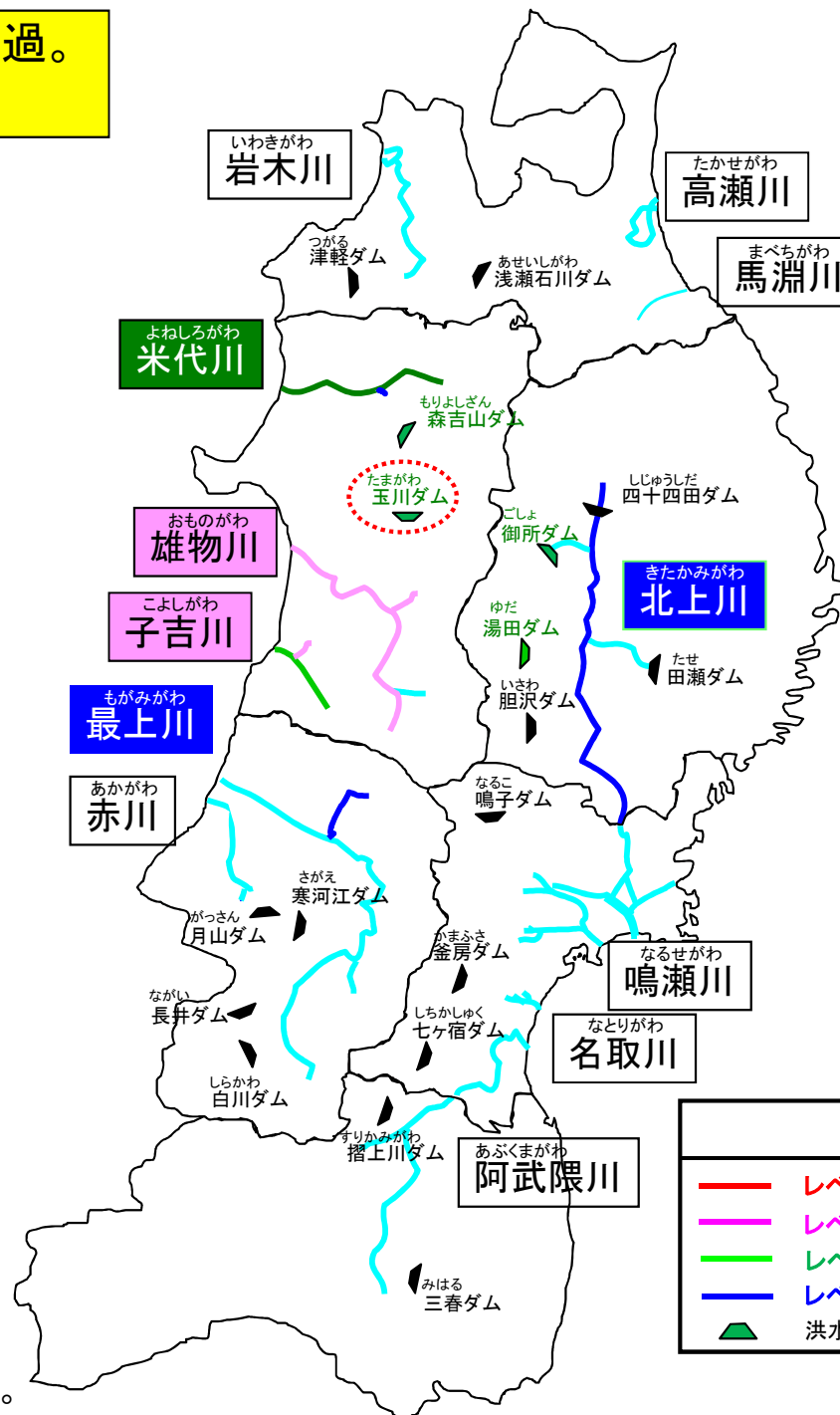
・高齢者等避難(警戒レベル3)

花巻市、西和賀町、雫石町

○山形県

・避難指示(レベル4)

酒田市



凡例	
—	レベル5(氾濫発生)
—	レベル4(氾濫危険水位超過)
—	レベル3(避難判断水位超過)
—	レベル2(氾濫注意水位超過)
▲	洪水調節実施ダム

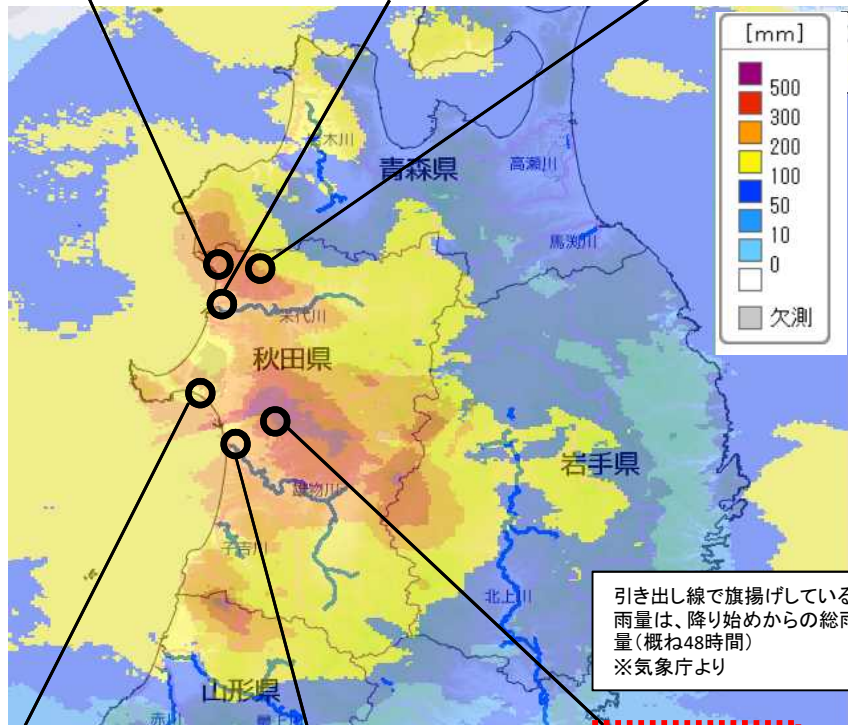
※速報値のため、今後変更となる場合があります。

令和5年7月15日からの梅雨前線による大雨に係る出水の概要

- 前線の影響により、秋田県を中心に記録的な大雨となり、**24時間雨量は多いところで300mmを超過**し、多くの雨量観測所で観測史上1位を記録したほか、7月の平年値も上回る降水量を記録。
- 管内の国管理河川においては、**氾濫危険水位超過が2水系3河川**（おものがわ雄物川水系雄物川・たまがわ玉川、こよしがわ子吉川水系石沢川）、**避難判断水位超過が2水系2河川**（もがみがわ子吉川水系子吉川、よねしろがわ米代川水系米代川）、**氾濫注意水位超過が2水系2河川**（いしざわがわ北上川水系北上川、きたかみがわ最上川水系鮭川）を記録。
- また、**県管理河川においては、堤防決壊や橋梁の崩壊（損傷）、堤防越水、溢水等による浸水被害が発生。**

令和5年7月14日13時～7月16日13時までの
48時間レーダー雨量（累積） ※統一河川情報システムより

はちもり 八森 249mm (観測史上1位) ※7月の平均値172.2mm	のしろ 能代 196mm (観測史上1位) ※7月の平均値162.5mm	ふじさと 藤里 333mm (観測史上1位) ※7月の平均値275.6mm
--	---	--

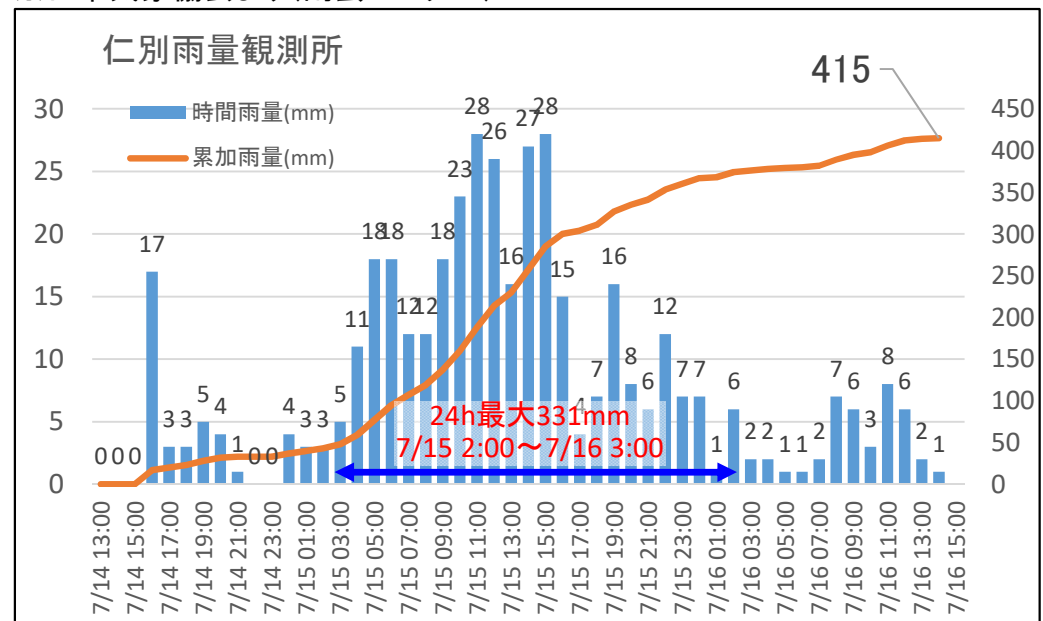


おが 男鹿 275mm (観測史上1位) ※7月の平均値176.2mm	あきた 秋田 252mm (観測史上1位) ※7月の平均値197mm	にべつ 仁別 415mm (観測史上1位) ※7月の平均値295.5mm
--	---	---

7/14～7/16にかけて継続して強い雨が降り続き、仁別雨量観測所では、24時間で331mmを記録。



※日本気象協会より(雨雲レーダー)



※7/14～7/16(降り始めからの総降水量)_気象庁

令和5年 7月15日からの大雨に関する河川の被害情報等について

令和5年7月20日 4:30時点

※速報であり、数値等は今後変わることもある。

国土交通省 水管理・国土保全局

- 国管理河川では、雄物川水系雄物川、米代川水系米代川の無堤部での浸水被害を確認(概ね解消)。その他の河川については内水被害を含めて調査中。氾濫危険水位を超過する水位上昇を記録した雄物川水系雄物川、玉川の上流にある玉川ダム(国管理)では、通常の洪水調節よりも大幅に流量を抑制する特別防災操作(全量カット)を実施し被害を軽減。
- 都道府県管理河川では、秋田県管理の6水系16河川で氾濫が発生(詳細確認中)。このうち、雄物川水系岩見川では、堤防が決壊し農地が浸水(応急復旧中)。その他の河川の被害については内水被害を含めて調査中。
- 21ダムにおいて洪水調節(事前放流2ダムを含む)を実施。このうち、3ダム(雄物川水系旭川：旭川ダム(秋田県管理)、米代川水系小阿仁川：萩形ダム(秋田県管理)、雄物川水系三内川：岩見ダム(秋田県管理)では、大雨の長期化に伴いダムが満杯に近づき、異常洪水時防災操作(緊急放流)に移行(被害なし又は被害軽減)。

○ 氾濫による浸水被害の発生状況

<国管理河川>

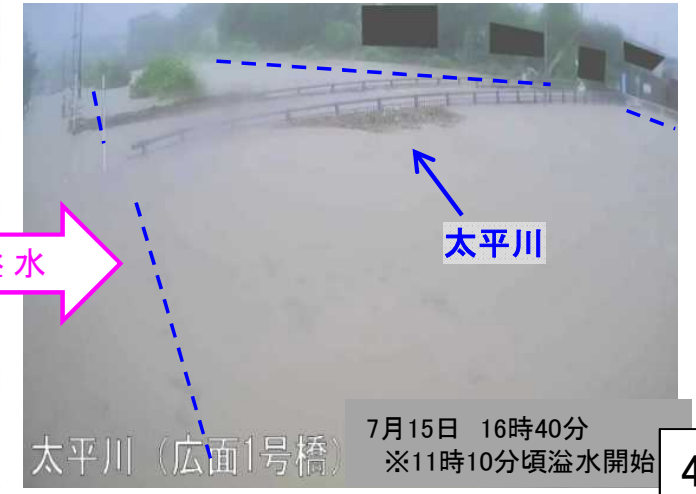
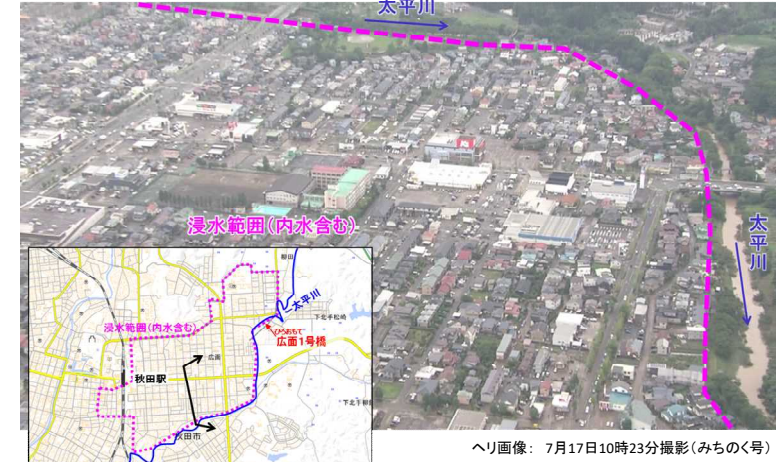
- 雄物川水系雄物川(秋田市)
- 米代川水系米代川(北秋田市)

<秋田県管理河川>

- 雄物川水系新城川、太平川、岩見川(秋田市)、
- 入見内川(仙北市)
- 米代川水系檜山川、種梅川、悪土川(能代市)
- 小阿仁川(上小阿仁村)
- 馬場目川水系馬場目川、内川川(五城目町)、
- 馬踏川(秋田市)、三種川、鶴川川(三種町)
- 比詰川水系比詰川(男鹿市)
- 塙川水系塙川(八峰町)
- 水沢川水系水沢川(八峰町)



秋田市 秋田駅周辺の浸水状況



秋田県内のダムの洪水調節(事前放流・緊急放流・特別防災操作を含む)について

令和5年7月18日 17:00時点

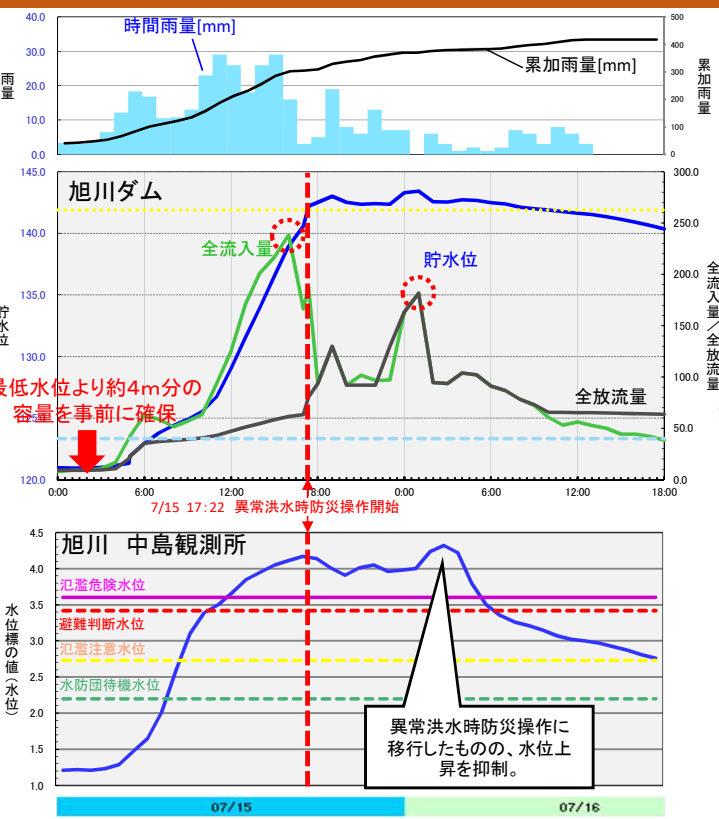
- 雄物川水系旭川の旭川ダム、雄物川水系三内川の岩見ダム及び米代川水系小阿仁川の萩形ダム(いずれも秋田県管理)では、洪水調節により下流の水位を低下させていたが、その後、ダムが満水に近づいたため緊急放流に移行したものの、下流への放流量を最小限にとどめ、下流河川の水位上昇を抑え、被害を回避・軽減。
- このうち、**岩見ダムでは、事前放流によりあらかじめ水位を下げていた**ことにより、緊急放流移行の時間を遅らせ、洪水調節の効果をさらに高めた(ダム下流の三内川の氾濫を回避。なお、三内川と合流する岩見川では氾濫が発生したが、洪水調節の効果により氾濫量を軽減)。
- 米代川水系粕毛川の素波里ダム(秋田県管理)では、洪水調節により下流の水位を低下させている中、緊急放流に移行する可能性があったが、事前放流によりあらかじめ水位を下げて容量を大きく確保していたため、洪水調節容量を使い切ることなく洪水調節を行うことができた(氾濫を回避)。
- 雄物川水系玉川の**玉川ダム(国管理)**では、下流の玉川の水位や合流後の雄物川本川の水位が氾濫危険水位を超えて上昇するおそれがあったため、通常の洪水調節よりも大幅に流量を抑制する**特別防災操作(全量カット)**を行い、玉川の被害を回避するとともに、雄物川の被害を軽減。

○:秋田県、●:国

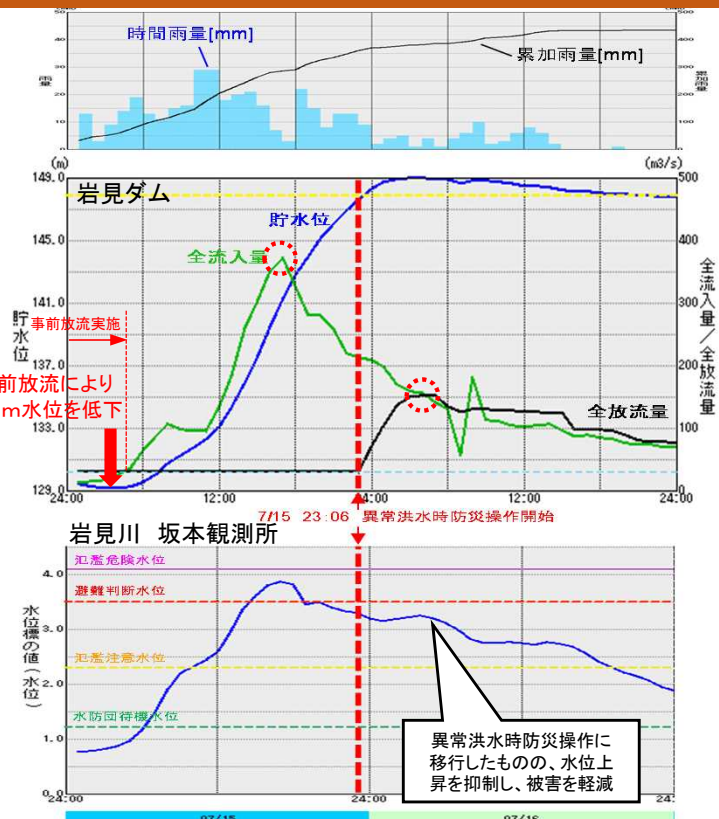


※数値等は速報値のため、今後の精査等により変更する場合があります。

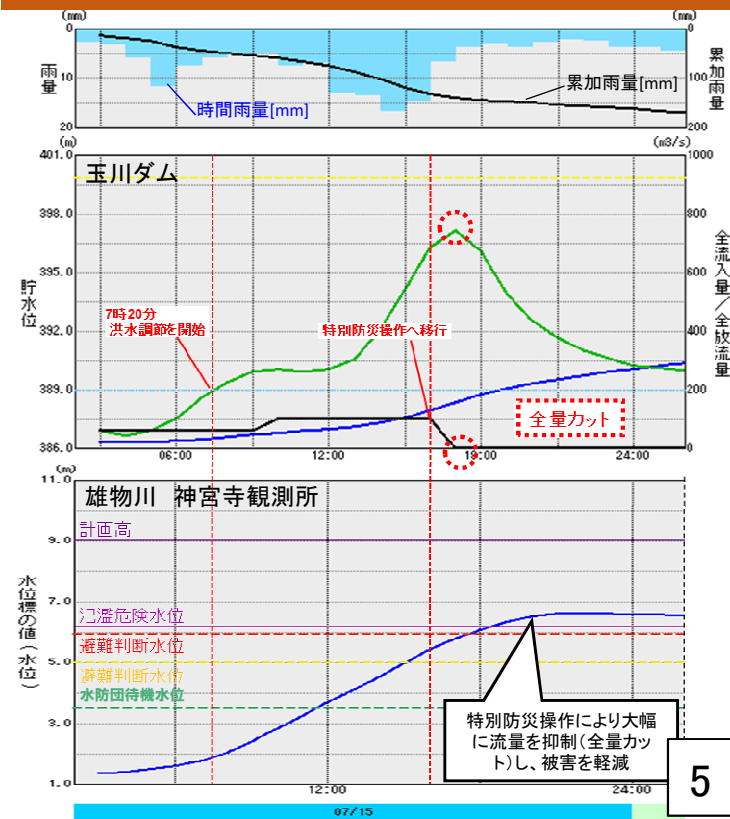
旭川ダム(秋田県管理)【雄物川水系旭川】



岩見ダム(秋田県管理)【雄物川水系三内川】



玉川ダム(国管理)【雄物川水系玉川】



令和5年9月8日 台風13号による大雨に係る出水／氾濫河川位置図【福島県】

R5. 9. 13 18:00時点

は追加・変更事項

■福島県管理河川／氾濫河川：5水系11河川

- 夏井川水系 新川、宮川、常住川
- 藤原川水系 湯本川
- 鮫川水系 鮫川、渋川、江畑川、天神川、山田川
- 蛭田川水系 蛭田川
- 小高川水系 前川

■浸水戸数（内外水含む）速報値

福島県合計 1,422戸（床上1,179戸、床下243戸）
 いわき市 1,379戸（床上1,151戸、床下228戸）
 南相馬市 43戸（床上 28戸、床下 15戸）



【凡例】
 —：氾濫発生河川
 ●：氾濫発生箇所



2. 令和4年の出水と再度災害防止対策

東北各地で頻発化・激甚化する水災害

■近年、東北地方においては、**毎年のように大規模な洪水が発生。**

H29.8、H30.5にも
氾濫被害が発生



雄物川30.0k付近

秋田市

H29.7洪水 雄物川
(秋田県)

H30.8、R4.8洪水最上川
(山形県)



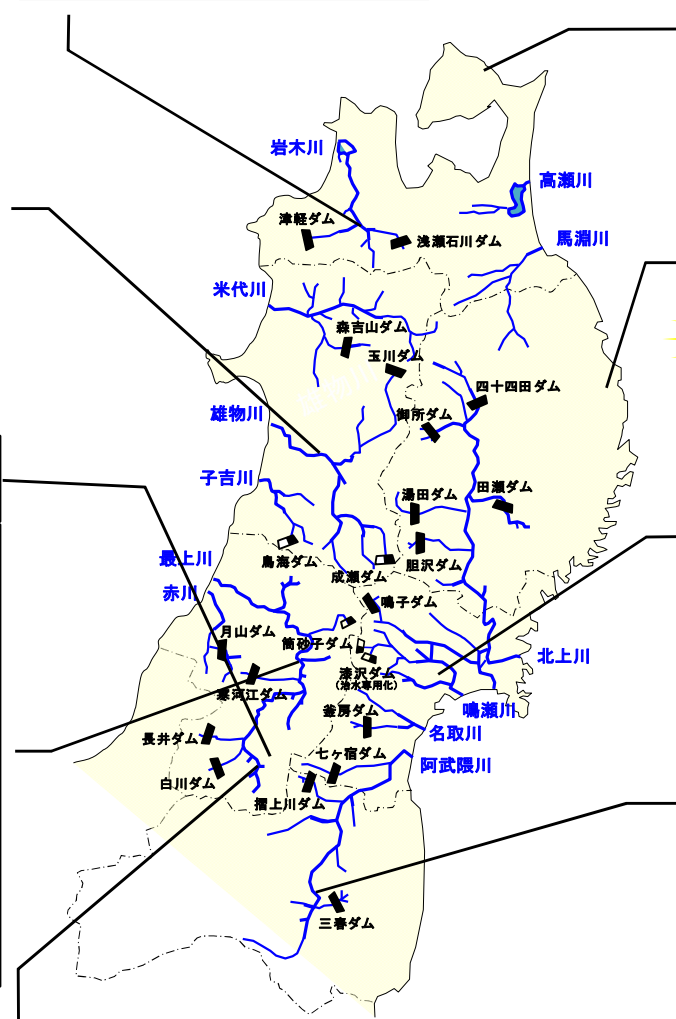
大石田町

最上川

R2.7豪雨 最上川
(山形県)

H25.8、H26.8洪水 最上川
(山形県)

H25.8、R4.8洪水岩木川
(青森県)



R3.8温帯低気圧による豪雨 下北・上北地域
(青森県)

H28.8台風10号 小本川ほか(岩手県)

R1東日本台風でも
氾濫被害が発生



H27.9関東東北豪雨 吉田川
(宮城県)



R1.10東日本台風 阿武隈川
(福島県・宮城県)

令和4年7月～8月に東北管内において発生した出水

【8月3日から大雨による出水】

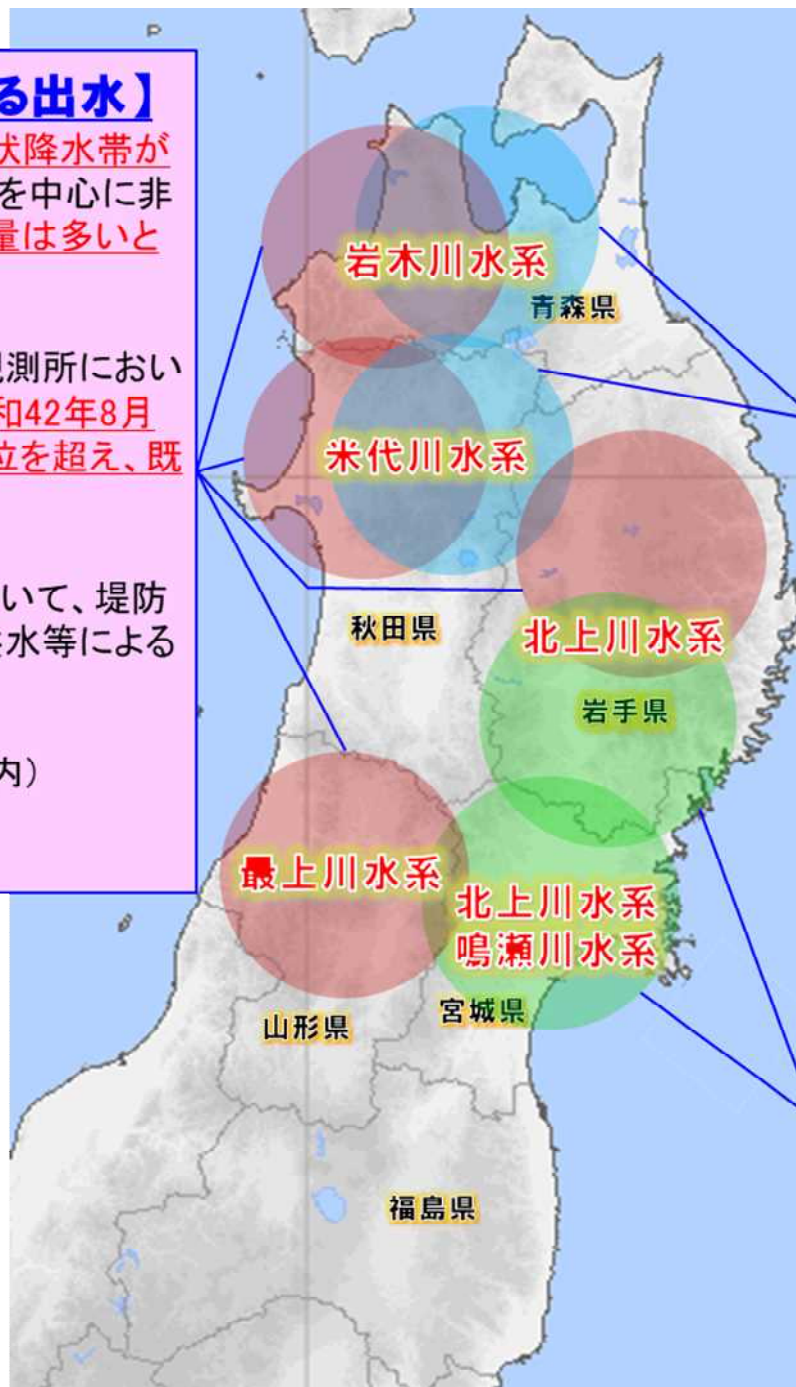
- 前線及び低気圧の影響により線状降水帯が発生し、青森県や秋田県、山形県を中心に非常に激しい降雨となり、24時間雨量は多いところで400mmを超過。
- 最上川水系最上川の小出水位観測所においては、氾濫危険水位を超過し、昭和42年8月(羽越豪雨)水害における最高水位を超え、既往第1位の水位を観測。
- 直轄管理河川や県管理河川において、堤防決壊や橋梁の崩壊、堤防越水、溢水等による浸水被害が発生。
- 氾濫危険水位超過河川(東北管内)
(直轄): 1水系 1河川
(県管理河川): 15水系 23河川

【8月9日から大雨による出水】

- 前線が東北北部に1週間程度停滞し、青森県や秋田県を中心に非常に激しい降雨となり、72時間雨量は多いところで400mmを超過し、多くの雨量観測所で観測史上第1位の降雨を記録。
- 岩木川水系岩木川の三世寺水位観測所(弘前市)、幡龍橋水位観測所(板柳町)においては、堤防設計の基本となる計画高水位を超過する水位を記録。
- 直轄管理河川では溢水(米代川)や内水被害、県管理河川では、堤防決壊や堤防越水・溢水による浸水被害が発生。
- 氾濫危険水位超過河川(東北管内)
(直轄): 2水系 3河川
(県管理河川): 12水系 19河川

【7月15～16日出水(前線)】

- 前線の影響により宮城県を中心に非常に激しい降雨となり、累加雨量は多いところで300mmを超過。
 - 宮城県大崎市や、大衡村の雨量観測所において観測史上第1位の降雨を記録。
- [鳴瀬川水系・北上川水系]
(直轄)・吉田川支川善川で、氾濫危険水位を超過
(県管理)・鳴瀬川水系名蓋川で堤防が決壊
・北上川水系出来川で堤防が決壊



- : 7月15～16日出水(前線)
- : 8月3日から大雨による出水
- : 8月9日から大雨による出水

令和4年に東北地方で発生した洪水

- 令和4年7月、8月に、立て続けに大規模な洪水が発生
- 7月15日鳴瀬川水系名蓋川、8月3日最上川、8月9日岩木川、中村川などで浸水被害が発生

おほだて 大館雨量観測所：過去最大を記録



秋田県内で8月に2回の出水被害を経験

R4.8.9豪雨 米代川（秋田県）

秋田県管理河川
 みたねがわ はねやまざわがわ とよかわ うちかわがわ ふつないがわ
 （三種川、羽根山沢川、豊川、内川川・富津内川、
 いもかわ こあにがわ ぶっしゃがわ ごたんざわがわ ひっかけがわ
 芋川、小阿仁川・仏社川・五反沢川、引欠川）

R4.8.3豪雨 秋田県管理河川

しもないがわ ぬかざわがわ ひやまがわ
 （下内川、糠沢川、桧山川）

しらかほ 白鷹雨量観測所：過去最大を記録



R2.7洪水でも同地区で氾濫被害が発生

R4.8.3豪雨 最上川（山形県）

山形県管理河川（誕生川、元宿川、小白川、萩生川、福田川、三合田川、田沢川、市の沢川）



R4.8.9豪雨

〔岩木川水系中里川 堤防決壊（青森県）〕

青森県管理河川

あいうちがわ おっべつがわ なかさとかわ みやのさわがわ やまだがわ
 （相内川、尾別川、中里川、宮野沢川、山田川、
 なるさわがわ なかむらがわ たいあきがわ あかいしがわ ことうじがわ
 鳴沢川、中村川、大秋川、赤石川、小童子、
 おおどうじがわ
 大童子川）

R4.8.3豪雨

青森県管理河川

ふたつもりがわ かわさりがわ おいらせがわ かにたがわ ひらかわ
 （二ツ森川、川去川、奥入瀬川、蟹田川、平川、
 あいうちかわ かとうがわ つばいがわ
 相内川、加藤川、津梅川）

鳴瀬川水系吉田川ではH27.9
 関東・東北豪雨でも氾濫、
 R1.10東日本台風では決壊

ふるかわ 古川雨量観測所：過去最大を記録



R4.7 前線による大雨

〔鳴瀬川水系名蓋川 堤防決壊（宮城県）〕

○令和4年7月、8月の大雨により、特に甚大な浸水被害が発生した水系において、再度災害防止の観点から、河川改修や下水道整備に加え、貯留浸透機能の確保や特定都市河川制度を活用した土地利用規制の検討・推進などの流域での取組が一体となった対策を実施・進捗管理する『緊急治水対策プロジェクト※』に着手します。

④ 山形県 最上川水系（最上川、小白川、萩生川等）

- 事業期間：令和4～7年度
- 事業費：約102億円（国、県）
- 対策内容

<ハード対策>

- ・河道掘削、堤防整備、内水調整池の整備、田んぼダムの推進 等

<ソフト対策>

- ・災害リスクの低い地域への居住誘導 等
- ・避難確保計画作成支援、防災ラジオ普及、マイ・タイムライン普及促進、災害情報ツール多重化 等



⑤ 新潟県 荒川水系（烏川、春木山大沢川等）（県管理区間のみ）

- 事業期間：令和4～8年度
- 事業費：約92億円（国、県）
- 対策内容

<ハード対策>

- ・河道拡幅、二線堤整備、輪中堤整備 等
- ・雨水幹線の整備・検討、田んぼダムの推進

<ソフト対策>

- ・リスクが高い区域における土地利用規制（浸水被害防止区域、災害危険区域等）
- ・流域タイムラインの運用開始、コミュニティタイムラインの策定



⑥ 石川県 檜川水系（檜川、鶴谷川、津上川等）

- 事業期間：令和4～13年度
- 事業費：約343億円（国、県）
- 対策内容

<ハード対策>

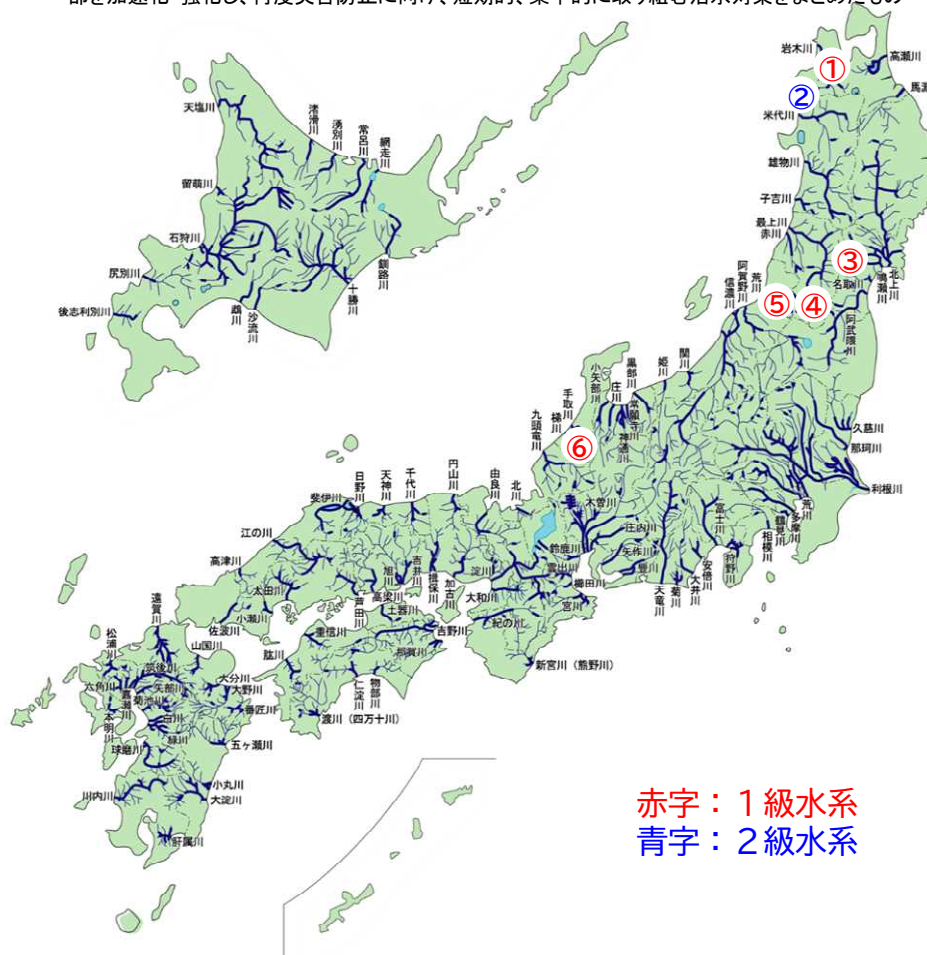
- ・引堤、河道掘削、遊水地、ポンプ場の増強、ダムの事前放流 等

<ソフト対策>

- ・土地利用規制（浸水被害防止区域、災害危険区域等）、居住誘導 等
- ・流域タイムライン運用、防災アプリ開発、災害時の情報共有（Web） 等



※大きな被害が生じた被災地域等を対象に、国、県、関係市町村が連携して流域治水プロジェクトの一部を加速化・強化し、再度災害防止に向け、短期的、集中的に取り組む治水対策をまとめたもの



① 青森県 岩木川水系（岩木川等）

- 事業期間：令和4～6年度
- 事業費：約84億円（国、県）
- 対策内容

<ハード対策>

- ・河道掘削、堤防嵩上げ、下水道整備（雨水幹線） 等

<ソフト対策>

- ・災害リスクの低い地域への居住誘導 等
- ・広域避難体制の構築、水防計画見直し、防災マップ作成 等



② 青森県 中村川水系（中村川等）

- 事業期間：令和4～8年度
- 事業費：約66億円（県）
- 対策内容

<ハード対策>

- ・築堤、河道掘削、橋梁架替、雨水排水、貯留浸透施設、水田貯留検討 等

<ソフト対策>

- ・土地利用規制（災害危険区域等）、居住誘導、住まい方の工夫
- ・浸水想定区域、ハザードマップ、タイムライン、水防体制の強化 等



③ 宮城県 鳴瀬川水系（多田川、大江川、名蓋川等）

- 事業期間：令和4～8年度
- 対策内容

<ハード対策>

- ・河道掘削、堤防強化、排水機場整備 等
- ・水田貯留の推進

<ソフト対策>

- ・居住誘導区域内における浸水被害軽減のための宅地嵩上げ支援
- ・簡易型監視カメラ、危機管理型水位計の充実
- ・要配慮者利用施設の避難確保計画の促進



※事業費は、名蓋川の災害復旧事業の採択後に追加を予定している

※上記のほか、九頭竜川水系鹿蒜川（福井県）についても災害復旧事業の採択後に詳細を公表予定

岩木川中流・上流 緊急治水対策プロジェクト

令和4年度～令和6年度

～流域のあらゆる関係者が協働し、津軽の人々の「いのちとくらし」を守る治水対策の推進～

- 岩木川流域では、国、青森県、市町村等が連携し、「岩木川水系流域治水プロジェクト」を進めているところであるが、令和4年8月9日からの大雨により、弘前市、板柳町、藤崎町の沿川約6.4kmにわたって計画高水位を超過し、堤防決壊リスクが高まり、内水等による浸水被害が発生したことから、以下の対策を実施する。
 - ・国、県は岩木川本川、支川の災害復旧、河道掘削、堤防のかさ上げ等の対策を集中的に実施し、同規模の洪水に対して氾濫を防止する。
 - ・弘前市では、立地適正化計画に基づく安全な場所への居住誘導、板柳町、藤崎町は、下水道整備等を行い、浸水被害の軽減を図る。
- 更に「流域治水」の実践・深化に向けて、特定都市河川制度(特定都市河川の指定)を活用した取組を推進していく。

■事業期間 令和4年度～令和6年度

■事業費 約62億円【国：約62億円】

※ この他、青森県では「管理する河川において、災害復旧事業等を実施していきます。今後、費用が確定した段階で、事業費に追加となります。」

■目標 令和4年8月と同規模の洪水を安全に流下させ、内水による浸水被害の軽減を図る

■氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

○河川区域での対策

- ・岩木川における河道掘削、堤防かさ上げの実施【国】
- ・災害復旧【県】

○集水域での対策

- ・内水被害軽減策として下水道整備(雨水幹線)を実施【板柳町、藤崎町】

■被害対象を減少させるための対策

○氾濫域での対策

- ・立地適正化計画に基づく安全な場所への居住誘導等【弘前市】

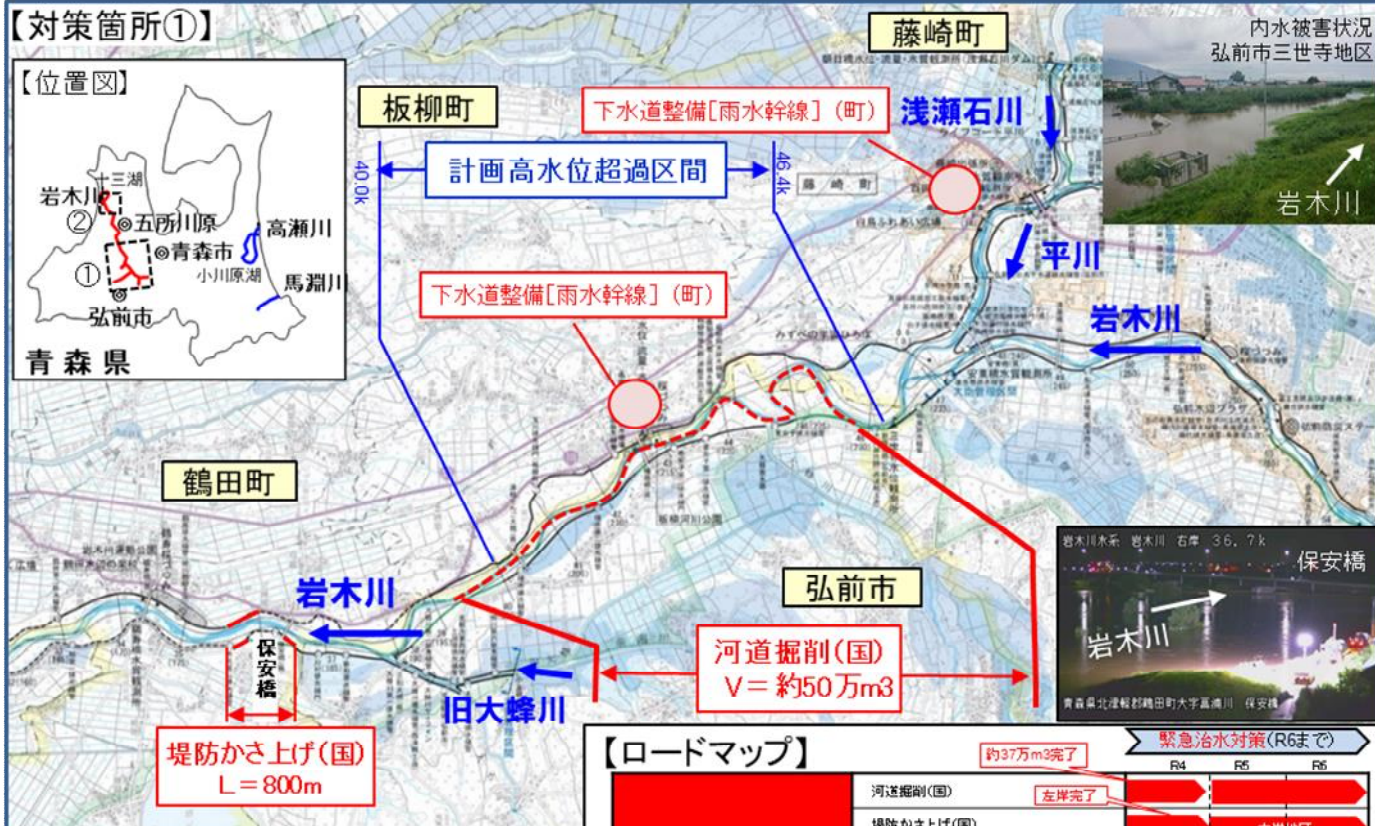
■被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

○氾濫域での対策

- ・広域避難体制の構築、水防計画の見直し、総合的な防災マップの作成【弘前市、板柳町】
- ・洪水ハザードマップを活用した講習会、緊急速報メール等による情報提供、防災アプリの整備、防災教育の実施【弘前市、板柳町】

【対策箇所①】

【位置図】



【対策箇所②】

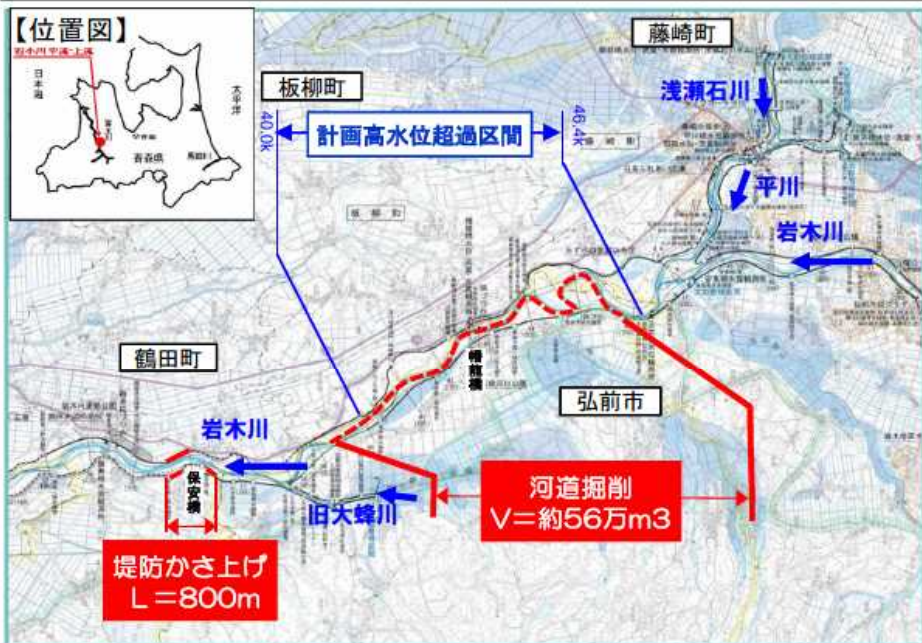


【ロードマップ】

	緊急治水対策(R6まで)		
	R4	R5	R6
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	河道掘削(国) 左岸完了	堤防かさ上げ(国)	災害復旧(国) 完了
被害対象を減少させるための対策	下水道整備(板柳町、藤崎町)	立地適正化計画に基づく安全な場所への居住誘導等(弘前市)	
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	避難体制等の強化	水害リスク情報の充実と普及	
流域治水関連法を活用した実効性の確保	特定都市河川の指定	流域治水対策計画の作成	特定都市河川の指定

※具体的な対策内容やスケジュールについては、今後の調査・検討等により変更となる場合があります。

- 令和4年8月出水により弘前市、板柳町、藤崎町の岩木川沿川6.4kmにわたって計画高水位を超過。
- 堤防決壊リスクが高まり、内水等による浸水被害が発生したことから、災害復旧、河道掘削、堤防のかさ上げ等の対策を集中的に実施。【岩木川中流・上流緊急治水対策プロジェクト】
- 今般、当プロジェクトの令和6年度完成を目指し、スピード感を持って推進することを広く周知し、社会意識の向上を図るため着工式（令和5年6月24日（土））を執り行ったものである。



▲セレモニー（工事開始号令）の様子



3. “流域治水”の実践

水害の激甚化（気候変動の影響による短時間豪雨の発生状況）

〔短時間豪雨(80mm/h以上)の発生状況〕

※1976年統計開始～2022年(過去47年間)

全国(47都道府県)

統計開始後の10カ年と近10カ年の平均発生回数は

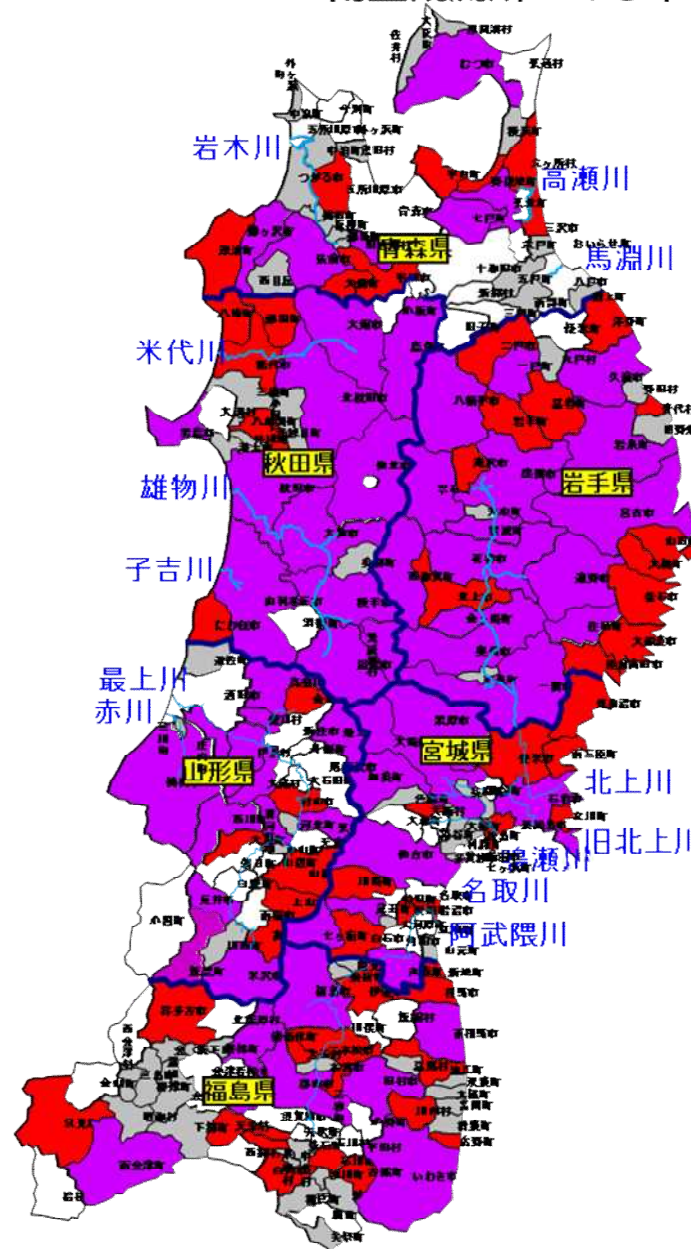
約1.8倍に増加



〔過去10年で降水量記録を更新した市町村〕

※1時間最大雨量(H25～R5.3)

※雨量観測所のある市町村は164



この10年で
約7割の市町村
(116)
で記録更新



その半数(60)では
2回以上記録更新

【凡例】

- 既往最大更新有り
- 既往最大を2回以上更新
- 雨量観測所無し
- 都道府県境

東北地方(6県)

統計開始から2011年までは数回程度

⇒近10カ年で**毎年のように発生、回数も増加**



※全国1300地点(気象庁観測所)を基に集計

気候変動を踏まえた計画へ見直し

○治水計画を、「過去の降雨実績に基づく計画」から
「気候変動による降雨量の増加などを考慮した計画」に見直し

これまで

洪水、内水氾濫、土砂災害、高潮・高波等を防御する計画は、
これまで、過去の降雨、潮位などに基づいて作成してきた。

しかし、
気候変動の影響による降雨量の増大、海面水位の上昇などを考慮すると
現在の計画の整備完了時点では、実質的な安全度が確保できないおそれ

気候変動による降雨量の増加※、潮位の上昇などを考慮したものに計画を見直し

※ 世界の平均気温の上昇を2度に抑えるシナリオ(パリ協定が目標としているもの)

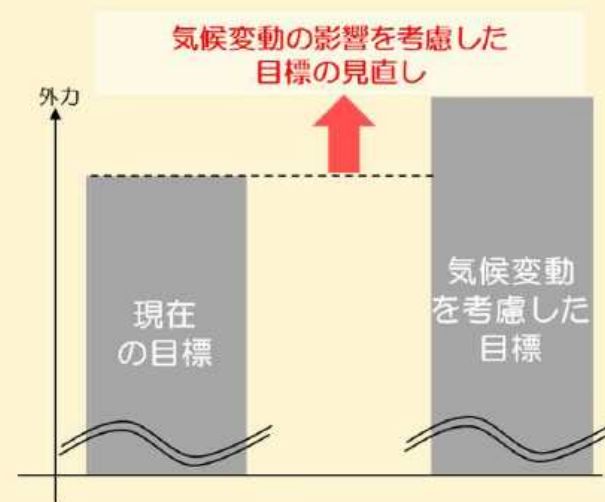
気候変動シナリオ	降雨量 (河川整備の基本とする洪水規模(1/100等))
2℃上昇相当	約1.1倍



降雨量が約1.1倍となった場合

全国の平均的な傾向【試算結果】	流量	洪水発生頻度
	約1.2倍	約2倍

※ 流量変化倍率及び洪水発生頻度の変化倍率は、一級水系の河川整備の基本とする洪水規模(1/100~1/200)の降雨に降雨量変化倍率を乗じた場合と乗じない場合で算定した、現在と将来の変化倍率の全国平均値



「流域治水」への転換・推進

- 気候変動の影響や社会状況の変化などを踏まえ、河川の流域のあらゆる関係者が協働して流域全体で行う治水対策、「流域治水」へ転換。
- 治水計画を「気候変動による降雨量の増加などを考慮したもの」に見直し、集水域と河川区域のみならず、氾濫域も含めて一つの流域として捉え、地域の特性に応じ、①氾濫をできるだけ防ぐ、減らす対策、②被害対象を減少させるための対策、③被害の軽減、早期復旧・復興のための対策をハード・ソフト一体で多層的に進める。
- 流域治水の実施にあたっては、自然環境が有する多様な機能を活かす「グリーンインフラ」の取組を推進する。

① 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

雨水貯留機能の拡大 集水域
 [国・市、企業、住民]
 雨水貯留浸透施設の整備、
 ため池等の治水利用

流水の貯留 河川区域

[国・県・市・利水者]
 治水ダムの建設・再生、
 利水ダム等において貯留水を
 事前に放流し洪水調節に活用
 [国・県・市]
 土地利用と一体となった遊水
 機能の向上

持続可能な河道の流下能力の維持・向上

[国・県・市]
 河床掘削、引堤、砂防堰堤、
 雨水排水施設等の整備

氾濫水を減らす

[国・県]
 「粘り強い堤防」を目指した
 堤防強化等

② 被害対象を減少させるための対策

リスクの低いエリアへ誘導／
住まい方の工夫 氾濫域
 [国・市、企業、住民]
 土地利用規制、誘導、移転促進、
 不動産取引時の水害リスク情報提供、
 金融による誘導の検討

浸水範囲を減らす
 [国・県・市]
 二線堤の整備、
 自然堤防の保全



③ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

土地のリスク情報の充実 氾濫域
 [国・県]
 水害リスク情報の空白地帯解消、
 多段型水害リスク情報を発信

避難体制を強化する

[国・県・市]
 長期予測の技術開発、
 リアルタイム浸水・決壊把握

経済被害の最小化

[企業、住民]
 工場や建築物の浸水対策、
 BCPの策定

住まい方の工夫

[企業、住民]
 不動産取引時の水害リスク情報
 提供、金融商品を通じた浸水対
 策の促進

被災自治体の支援体制充実

[国・企業]
 官民連携によるTEC-FORCEの
 体制強化

氾濫水を早く排除する

[国・県・市等]
 排水門等の整備、排水強化

流域治水プロジェクト2.0

～気候変動下で水災害と共生する社会をデザインする～

- 気候変動の影響により当面の目標としている治水安全度が目減りすることを踏まえ、流域治水の取組を加速化・深化させる。このために必要な取組を反映し『流域治水プロジェクト2.0』に更新する。

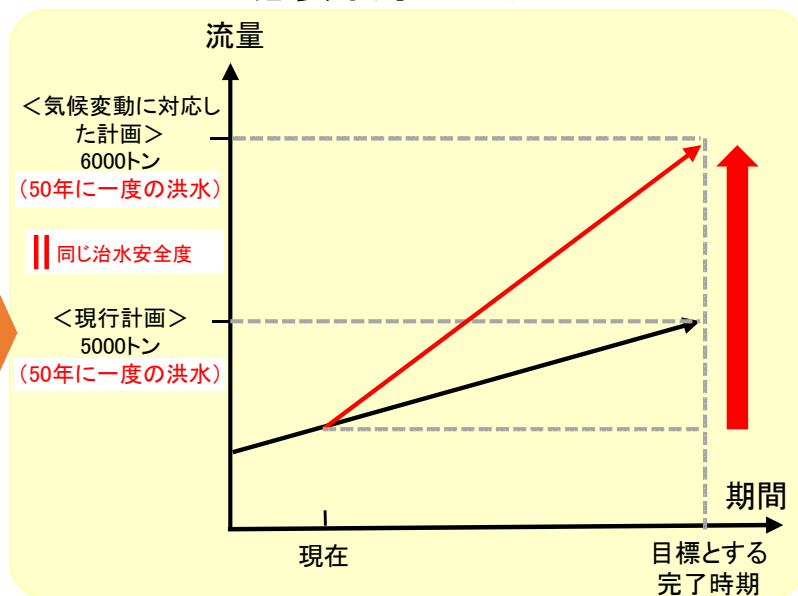
現状・課題

- 2℃に抑えるシナリオでも2040年頃には降雨量が約1.1倍、流量が1.2倍、洪水発生頻度が2倍になると試算
- 現行の河川整備計画が完了したとしても治水安全度は目減り
- グリーンインフラやカーボンニュートラルへの対応
- インフラDX等の技術の進展

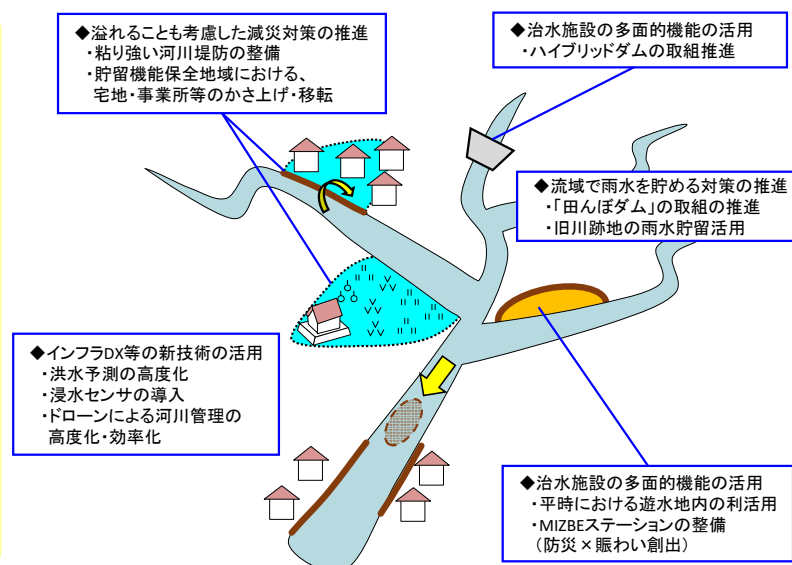
必要な対応

- 気候変動下においても、目標とする治水安全度を現行の計画と同じ完了時期までに達成する
- あらゆる関係者による、様々な手法を活用した、対策の一層の充実を図る

必要な対応のイメージ



様々な手法の活用イメージ



気候変動シナリオ	降雨量 (河川整備の基本とする洪水規模)
2℃上昇	約1.1倍

降雨量が約1.1倍となった場合

全国の平均的な傾向【試算結果】	流量
	約1.2倍

同じ治水安全度を確保するためには、目標流量を1.2倍に引き上げる必要

※現行の計画と同じ完了時期までに目標とする治水安全度を達成するため、様々な手法を活用し、集中的に整備を進めることが必要
⇒全国109水系で、上記の対策内容を反映した『流域治水プロジェクト2.0』に順次更新する

東北地方整備局管内では、鳴瀬川水系で先行して取りまとめました。
他の11水系についても、今年度を目途に順次取りまとめまいります。

鳴瀬川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～都市化の進む流域において総合的な治水対策を一層推進し、浸水被害を軽減～

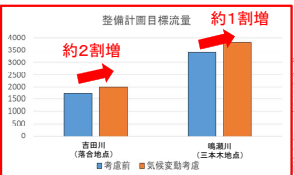
- 平成27年9月の関東・東北豪雨では戦後最大を超える洪水により、吉田川を中心に甚大な被害が発生したことをふまえ、以下の取り組みを一層推進していくものとし、更に国管理区間においては、**気候変動（2℃上昇時）下でも目標とする治水安全度を維持するため、降雨量増加（雨量1.1倍）を考慮した戦後最大洪水である昭和22年9月洪水（鳴瀬川）と、令和元年東日本台風による洪水※（吉田川）を安全に流下させることを目指す。**（※1 関東・東北豪雨（平成27年9月洪水）に対し、気候変動における降雨量増加を考慮した流量と同規模）
- 鳴瀬川水系鳴瀬川・吉田川流域では、これまでも流域が一体となって堤防整備や遊水地等の整備を進めてきたが、**気候変動の影響に伴う降雨量や洪水発生頻度の変化という新たな課題や、流域の土地利用の変遷に伴う保水・遊水地域の減少等を踏まえ、将来に渡って安全な流域を実現するため、特定都市河川浸水被害対策法（以下「法」）の適用を行い、更なる治水対策を推進する。**
- 東北“初”の吉田川特定都市河川指定を皮切りに、鳴瀬川水系における指定を順次拡大するとともに、貯留機能の保全及び拡大、河川への流出抑制・浸水被害を軽減、浸水状況のリアル化・自分事化や安心・安全で持続可能なまちづくりを促進するため、あらゆる関係者が協働して流域治水に取り組む。

● 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・洪水氾濫対策
（河道掘削、堤防整備、**遊水地整備**、鳴瀬川ダム建設、漆沢ダム再開発、**既存砂防堰堤の機能改良・流木対策**、海岸における事業間連携を通じた砂の有効活用検討、**堤防耐力の向上、インフラDX(施策)における河川管理の高度化・効率化(3次元データデータの活用等)**等)、利水ダム等8ダムにおける事前放流等の実施、体制構築等)
- ・内水氾濫対策
（排水機場の増設、能力強化、耐水化、下水道整備（雨水調整池、幹線整備）等、**排水機場群一体管理による効果的な運用(運転調整等)**等)、流出抑制対策
- ・流域の雨水貯留機能の向上
水田貯留(田んぼダムの取組拡大)、森林整備、治山対策、**法による貯留機能保全区域の指定、ため池等の活用**等
※今後、関係機関と連携し検討

● 被害対象を減少させるための対策

- ・水災害ハザードエリアにおける土地利用や住まい方の工夫
（浸水被害軽減の宅地嵩上げ支援等、適正な土地利用の規制誘導、二線堤の整備等）
- ・まちづくりでの活用を視野にした水災害リスク情報の充実
（**立地適正化計画**で定める防災指針による居住誘導区域内の災害リスク**低減、防災力向上**等）
※今後関係機関と連携し対策検討

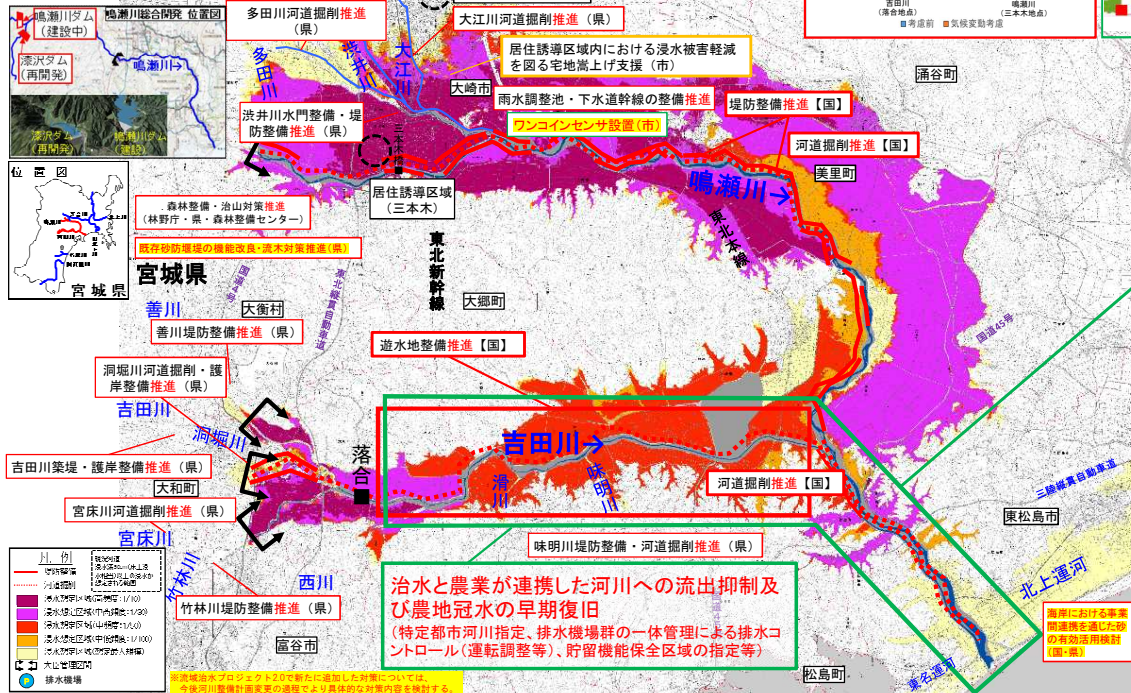


● 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・土地の水災害リスク情報の充実
（**災害リスクの現地表示等、水害伝承の取組促進**、ダム堰の効果・操作に関する情報の周知、水害リスク空白域の解消、簡易型監視カメラ・危機管理型水位計の設置、**浸水深の低減と浸水時間の短縮(排水箇所カルテの作成等)**）
- ・避難体制等の強化
（**マイ・タイムライン普及促進、水害リスクライン・洪水キキクル普及・利活用促進、命を守る行動**に繋げる情報発信(ワンコイン浸水センサ)、要配慮者施設避難計画促進等）
- ・関係者と連携した早期復旧・復興の体制強化
（市町村庁舎等防災拠点の機能確保、**治水と農業が連携した河川への流出抑制及び農地冠水の早期復旧**、水防資材の拡充等）
※今後関係機関と連携し対策検討

特定都市河川指定等のロードマップ

対策区分	水系	代表河川	指定河川数	実施主体	R5	R6	R7	R8	R9～	備考
特定都市河川の指定	鳴瀬川水系	吉田川	26河川	国、宮城県、10市町村	計画	実施	実施	実施	実施	治水被害対策の実施
流域水害対策計画の策定	鳴瀬川水系	多田川	約7河川	国、宮城県、2市町	計画	実施	実施	実施	実施	特定都市河川指定に向けた合意形成、指定、計画検討、計画策定、治水被害対策の実施



治水と農業が連携した河川への流出抑制及び農地冠水の早期復旧(イメージ)

(特定都市河川指定、排水機場群の一体管理による排水コントロール(運転調整等)、貯留機能保全区域の指定等)

- ① 内外水位情報の集約・共有・活用**
遊水地(国土交通省計画)に貯留(通常は水田)
●ふたんの時 ●洪水の時
統合運用
400ha 整備 1400ha 整備 500ha 整備 250ha 整備
施設の統廃合 整備
- ② 排水機場群の一体管理による効果的な運用(運転調整等)**
排水機場のポンプの運転調整を行わなかった場合
●被害大
排水機場の運用調整
●被害小
排水機場のポンプの運転調整を行なった場合
農地に水がたまる
- ③ 事前排水**
排水路、調整池の水位を事前に
ため池等の活用
流域内のため池
- ④ 田んぼダム**
田んぼダムコンソーシアムの取組拡大
水田の活用(田んぼダム)による流出抑制の促進
田んぼダムのイメージ
田んぼダムによる流出抑制の促進
田んぼダムコンソーシアム
宮城県田んぼダム管理コンソーシアム設立 (R3.6.14設立)

新規事項

流域治水関連法（特定都市河川の指定拡大）による流域治水の深化

- 全国で進める「流域治水」の実効性の確保が急務。河川管理者の先導により特定都市河川の指定を進め、「流域治水」の考え方に基づく水害に強い地域づくりの早期実現を達成する。
- 国は、今後、全国で公表する5年間のロードマップに基づいた流域水害対策計画※の策定、浸水被害対策に対し、集中的に支援。

※特定都市河川浸水被害対策法第4条第1項の規定に基づき河川管理者・地方公共団体等が共同して策定

背景・課題

- 近年、全国各地で激甚な浸水被害が発生しており、「流域治水」の実効性の確保が喫緊の課題。
- このため、河川管理者が水害リスクの高い地域の特定都市河川指定を先導し、事前防災対策を推進。



新規事項

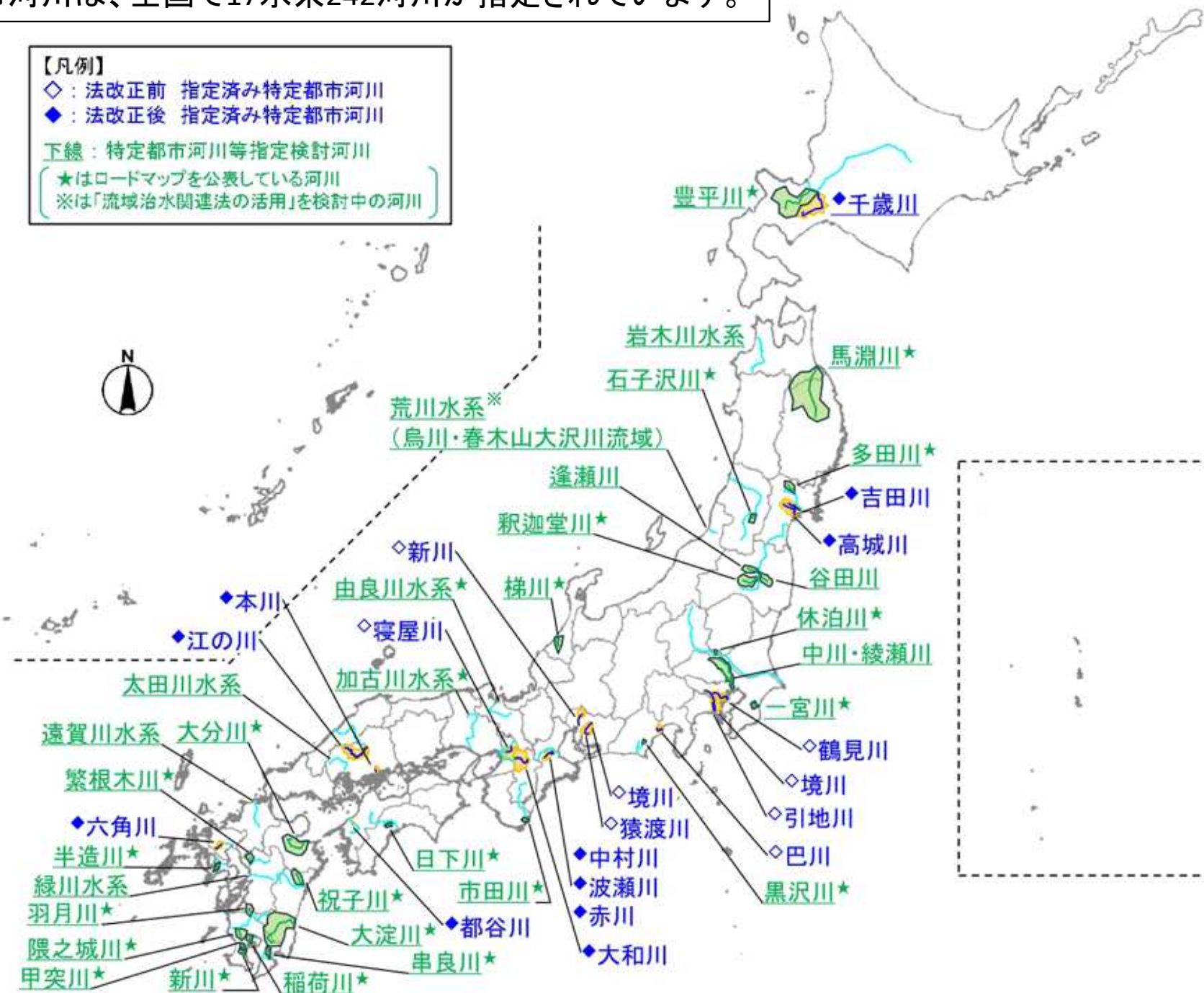
- 流域水害対策計画作成事業を創設※し、都道府県による特定都市河川指定を強力に推進。
※特定都市河川浸水被害対策推進事業に当該事業を追加
- 対象：都道府県
- 拡充内容：令和5年度から5年間の時限措置として、流域水害対策計画の策定に要する調査・検討費用を支援
- 流域水害対策計画に位置づけられた、雨水貯留浸透対策・土地利用規制等と一体的に行う河川管理者のハード対策には予算を重点措置。（R5継続）
- （併せて取り組む事項）
- 国・都道府県の河川管理者は、水害リスクの高い河川について、今後5年間における特定都市河川指定及び流域水害対策計画策定についてR5出水期までに流域の関係者と調整し、ロードマップとして順次公表。
〈特定都市河川指定・流域水害対策計画策定のロードマップ（イメージ）〉

対策区分	河川	実施主体	工程				
			R5	R6	R7	R8	R9~
特定都市河川の指定 流域水害対策計画の策定	A川	国、A県 関係20市町	合意形成	指定	計画検討	計画策定	浸水被害対策の実施
	B川	A県 関係12市町村		合意形成	指定	計画検討	計画策定
	C川	B県 関係5市町村			合意形成	指定	計画検討

特定都市河川の指定状況（令和5年9月1日時点）

➤ 特定都市河川は、全国で17水系242河川が指定されています。

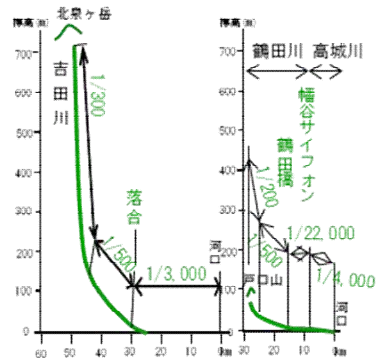
- 【凡例】
- ◇：法改正前 指定済み特定都市河川
 - ◆：法改正後 指定済み特定都市河川
 - 下線：特定都市河川等指定検討河川
 - ★はロードマップを公表している河川
 - ※は「流域治水関連法の活用」を検討中の河川



「流域治水」の本格的な実践に向けた「鳴瀬川水系吉田川等」、「高城川水系高城川等」の特定都市河川への指定

吉田川・高城川（宮城県）の地形特徴

- ・吉田川、高城川は、急峻な山間部から低平地へと地形勾配が急激に変化し、標高差の少ない広大な低平地は一大穀倉地帯を形成している。
- ・沿川に、富谷市、大和町、大郷町、松島町等の市街地があり、人口・資産が集積。



近年の水害、気候変動による激甚化・頻発化を踏まえた「流域治水」の取組強化

- R1.10 令和元年東日本台風により、堤防決壊や越水等により、吉田川沿川では約680戸、約5,540haが浸水する甚大な被害が発生
- R3.3 鳴瀬川水系 流域治水プロジェクト策定・公表
- R4.7 前線・低気圧の影響による豪雨で、吉田川、高城川・鶴田川沿川において、内水氾濫が発生
- R4.8 吉田川流域治水部会を設立
- R4.11 特定都市河川指定に向けて関係者間で合意



令和元年東日本台風による浸水状況



第3回吉田川流域治水部会 (R4.11.30)

法的枠組み（特定都市河川制度）を活用した「流域治水」の本格的実践

ハード整備の加速化

流域治水整備事業等の活用
特定都市河川浸水被害対策推進事業等の活用

- 流域水害対策計画を早急に策定し、位置付けられたメニューについて、整備を加速化
 - ・河道掘削、遊水地整備、堤防強化
 - ・関係機関と連携した、内水浸水に対する排水能力の強化
 - ・貯留機能保全区域に係る家屋浸水防止対策

流出抑制対策の推進

開発等に伴う流出増への対策の義務化
(雨水浸透阻害行為の許可)

- 流出雨水量を現在よりも増加させる行為への対策を義務付け

貯留機能を有する土地への盛土等に対する勧告等
(貯留機能保全区域の指定、指定した土地の減税)

- 農地遊水機能の積極的な活用「田んぼダム」の推進
- 貯留機能保全区域の指定

流域全体で「命と生業を守るためのサポート」を推進

- 低平農地における貯留機能の維持等に対するインセンティブ支援方策の具体化
- 協議会等を通じた事業推進課題等の共有及び問題解決・合意形成の推進 等



河道掘削



農地遊水機能の積極的な活用



内水浸水に対する排水能力の強化

特定都市河川流域全体の取組により、安全度を早期に向上させる

※具体的な対策内容については、今後の調査、検討等により変更となる場合がある

①吉田川は、左岸側を流れる鳴瀬川と一連区間で並行しており、山地に挟まれた狭窄部を2つの河川が流下する地形であるため、河道拡幅等の河川改修は困難な河川である。

②高城川は、江戸時代より山間部を河道として最大限に掘削改修した人工河川であり、河道拡幅等の河川改修は困難な河川である。

また、河口部周辺は特別名勝松島の保護地区に指定されており、河道拡幅等の河川改修は困難な河川である。



河道等の整備のみでは早期の浸水被害解消が困難であり、特定都市河川の指定により、「流域治水」を本格的に実践

○河川区間：鳴瀬川水系吉田川等〔26河川〕
○流域面積：350km²
(東松島市の一部、大崎市の一部、富谷市、仙台市の一部、松島町の一部、利府町の一部、大郷町の一部、大和町の一部、色麻町の一部、大衡村の一部)

○河川区間：高城川水系高城川等〔10河川〕
○流域面積：120km²
(大崎市の一部、松島町の一部、利府町の一部、大郷町の一部、大和町の一部、大衡村の一部)



東北地方 “初” !!

地域を“みず”から守る。東北流域治水

鳴瀬川水系吉田川等・高城川水系高城川等が特定都市河川に指定!

鳴瀬川水系吉田川等(計26河川)及び高城川水系高城川等(計10河川)が、東北地方で“初”となる特定都市河川の指定となりました。

指定に伴い、宮城県、仙台市、東松島市、大崎市、富谷市、松島町、利府町、大和町、大郷町、大衡村、色麻町、東北農政局、東北地方整備局が一堂に会し、関係者が連携した流域水害対策の推進に向けた**確認書調印式**を、令和5年8月10日に開催しました。

特定都市河川・特定都市河川流域図



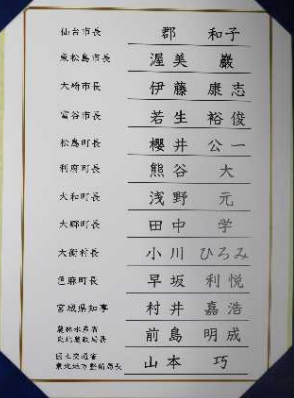
	鳴瀬川水系吉田川等	高城川水系高城川等
流域面積	350km ²	120km ²
指定河川	吉田川、堤川、味明川、滑川、身洗川、五輪沢川、苗代沢川、西川、小西川、明石川、長柴川、板坂川、善川、奥田川、荒屋敷川、埴川、谷掛川、猿切川、榎田川、竹林川、宮床川、小野川、明通川、洞堀川、南川、荻ヶ倉川[計26河川]	高城川、新川、田中川、穴川、鶴田川、広長川、深谷川、大迫川、小迫川、新堀川[計10河川]

今後、国、県、流域市町村及び関係機関からなる「**吉田川・高城川流域水害対策協議会**」により、ハード整備の加速化に加え、流域における貯留・浸透機能の向上や水害リスクを踏まえたまちづくり・住まいづくり等、**命と生業を守るための浸水被害対策を流域一体で計画的に進めるため、流域水害対策計画の策定に取り組みます。**



(後列: 左から)色麻町※、大衡村※、大和町※、利府町※、松島町※、東松島市※、仙台市※
(前列: 左から)山本東北地整局長、前島東北農政局長、田中大郷町長、伊藤大崎市長、若生富谷市長、宮城県※
※は、代理出席者

確認書へ署名



新規
事項

持続可能な社会の実現に向けた流域治水と地域の活動・営みの共生

- 気候変動の影響により、洪水発生頻度が増加することを踏まえ、河川整備に加えて、貯留機能の保全や資産の守り方の工夫といった流域対策がますます重要。
- 一方、浸水で地域の衰退を招かぬよう、流域治水と地域の活動・営みが共生し、持続可能な社会を目指す必要。
- このため、貯留機能を有する土地における活動の工夫に対しての支援等、今後の事業継続に必要な対策に対して重点的に支援する。

「氾濫を防ぐ・減らす」取組に係る支援制度

【これまでの支援】

- 雨水貯留浸透施設の整備に係る支援
 - ・流域対策を推進するため、雨水貯留浸透施設の整備を支援（特定都市河川浸水被害対策推進事業等）
- 税制特例
 - ・認定計画に基づき整備する雨水貯留浸透施設の固定資産税の課税標準を、指定後3年間市町村の条例で定める割合に減免
 - ・貯留機能保全区域の指定を受けている土地に係る固定資産税及び都市計画税の課税標準を、指定後3年間市町村の条例で定める割合に減免

「被害対象を減らす」取組に係る支援制度

【これまでの支援】

- 安全な土地への移転に係る支援
 - ・浸水被害防止区域内から住居の集団的移転を支援（防災集団移転促進事業）
 - ・浸水被害防止区域内における既存不適格住宅等の移転を支援（がけ地近接等危険住宅移転事業）
 - ・災害リスクの相対的に低いエリアへの居住の集約・誘導を支援（都市構造再編集中支援事業）
- 既存の住宅等の浸水対策に係る支援
 - ・浸水被害防止区域における既存不適格住宅等の改修（嵩上げ等）を支援（災害危険区域等建築物防災改修等事業）

「被害の軽減・早期復旧・復興」に係る支援制度

【これまでの支援】

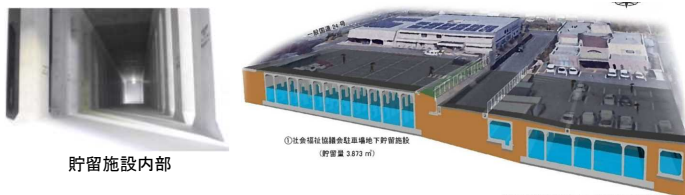
- 貯留後の早期排水に係る支援
 - ・貯留機能保全区域において洪水・雨水を貯留後、早期に排水するための排水施設の整備を支援（特定都市河川浸水被害対策推進事業）



持続可能な社会の実現に向け、流域治水と地域の活動・営みが共生するための支援を充実

【新たな支援】

- 民間企業等の経済活動に影響が及ばない範囲において、民間企業等の敷地において雨水貯留浸透施設の整備を支援。



<社会福祉施設等の駐車場の地下を活用した雨水貯留浸透施設の設置(奈良県田原本町)>

【新たな支援】

- 浸水リスクに晒されている地域や貯留機能を保全する地域において、早期かつ効果的に家屋の浸水被害防止・軽減を図るため、宅地等のかさ上げや家屋移転を推進するための制度を充実。



<宅地かさ上げの事例(熊本県八代市HPより)>

【新たな支援】

- 浸水後も早期に経済活動の再開ができるよう、事業所等の設備等の浸水対策を推進するための制度を充実。



<農業施設の設備の事例(農水省HPより)>

新規
事項

水害常襲地域における流域治水対策の推進

- 気候変動に伴う降雨の増大に対し、早期に治水安全度の向上を図るため、「流域治水」の理念に基づき、地域の合意のもと貯留機能の保全を図りつつ、上下流バランスに縛られず、当該地域で浸水リスクに晒される家屋や事業設備の浸水対策を迅速に完了することが重要。
- このため、浸水リスクに晒される地域において、輪中堤や宅地・事業所等のかさ上げ等の治水対策を推進するための制度拡充を行い、治水対策と地域の活動・営みが共生した持続可能な社会の実現を目指す。

背景・課題

- 本川からの背水の影響等により水害が多発する地域では、本川・支川一体の抜本的な対策が必要。
- この場合、支川の改修は、下流側になる本川の改修後の着手となるため、完了までは長期の期間を要する。
- 下流に負荷をかけない遊水地として早期に着手する方法もあるが、対象地域には河川区域として規制を要し、集落が点在する場合等、土地利用の状況によっては、地域の合意が図られないことが想定される。

土地利用状況を踏まえた、早期の安全度確保の方法が必要



令和5年7月の大雨の状況

新規事項

- 浸水リスクに晒される地域において、下流の河川整備を待たずに、早期かつ効率的に家屋・事業所等における浸水被害の防止・軽減を図るため、「流域治水整備事業（直轄）」及び「特定都市河川浸水被害対策推進事業（補助）」を拡充。

【事業内容】

河川管理者による輪中堤、宅地・事業所等のかさ上げ、家屋移転、越流区間の強化対策 等



新規
事項

頻発する内水被害への対策強化

- 内水被害の蓋然性が特に高い地域を対象に、中小河川流域における内水被害等を軽減することを目的として、ハード・ソフトの交付金事業をパッケージ化し、対策を加速化する「内水被害等軽減対策事業（仮称）」を創設。
- 雨水貯留や土地利用の工夫等の流域対策と、河川・下水道の内水対策等を一体的に実施。

現状

- ・ 降雨による河川の増水により、市街地の排水機能が十分に発揮されないことによる内水被害が全国各地で発生しており、今後、気候変動の影響により内水被害の拡大が懸念。
- ・ **これまでの、被災した地域を中心に**、各施設管理者が各々対策を実施しており、地域における一体的な対策効果の発現が困難だった。
- ・ **今後は、事前防災として**、各施設管理者が一体となり対策を進めていくことが重要であり、現状の河川や下水道の整備とともに、まちづくり、「田んぼダム」等、あらゆる取組と連携する仕組みが必要。

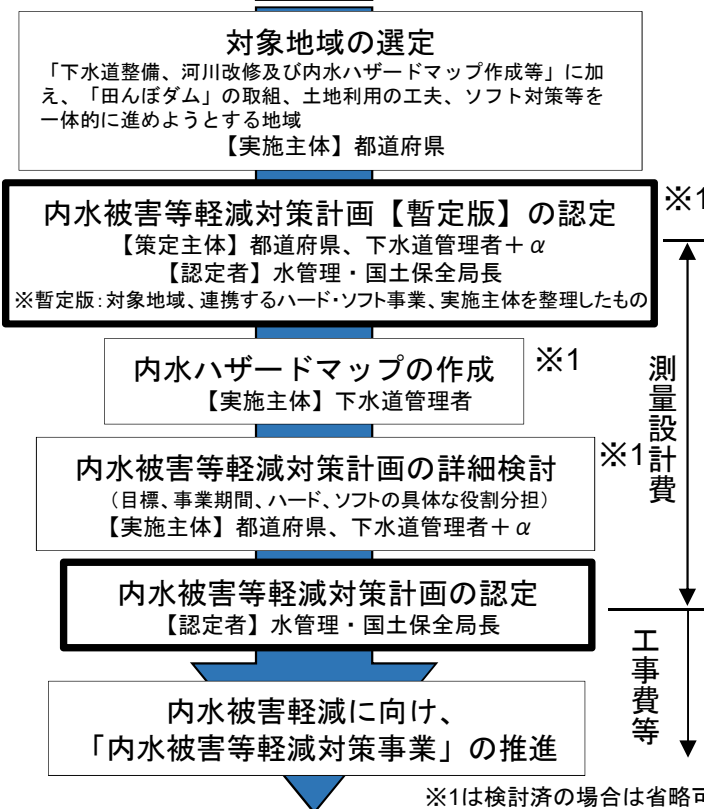


令和5年7月の大雨（秋田県秋田市）

今後の取組

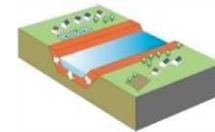
- ・ 特に内水被害の蓋然性が高い地域を対象とし、事前防災対策として対策を進めるため、対策の目標とする降雨を設定し、「田んぼダム」の取組、土地利用の工夫等の流域対策と一体的に実施する、下水道事業の対策強化及び本川・支川の河川整備の強化、雨水貯留浸透施設等の整備等の個別の交付金事業をパッケージ化した事業計画を都道府県が主体に作成し、内水被害軽減に向け事業を推進。

【事業プロセス】



河川掘削

河川を掘削して水の流れる断面を大きくして水位を下げる



河川改修の推進



内水ハザードマップの作成

内水被害等軽減対策事業（仮称）の例
（あらゆる事業をパッケージ化）

必須

- 【下水道整備】 例：下水道浸水被害軽減総合事業※2
- 【河川改修】 例：広域河川改修事業、流域貯留浸透事業※2
- 【ソフト対策】 例：内水ハザードマップの作成
- 【ソフト対策】 例：情報基盤整備事業 ※2 適用範囲を拡充

＋ 下記のいずれかの事業と連携

ハード

- ・ 防災まちづくりや住まい方の工夫に関する事業
- ・ 「田んぼダム」のための水田整備等に関する事業 など

ソフト

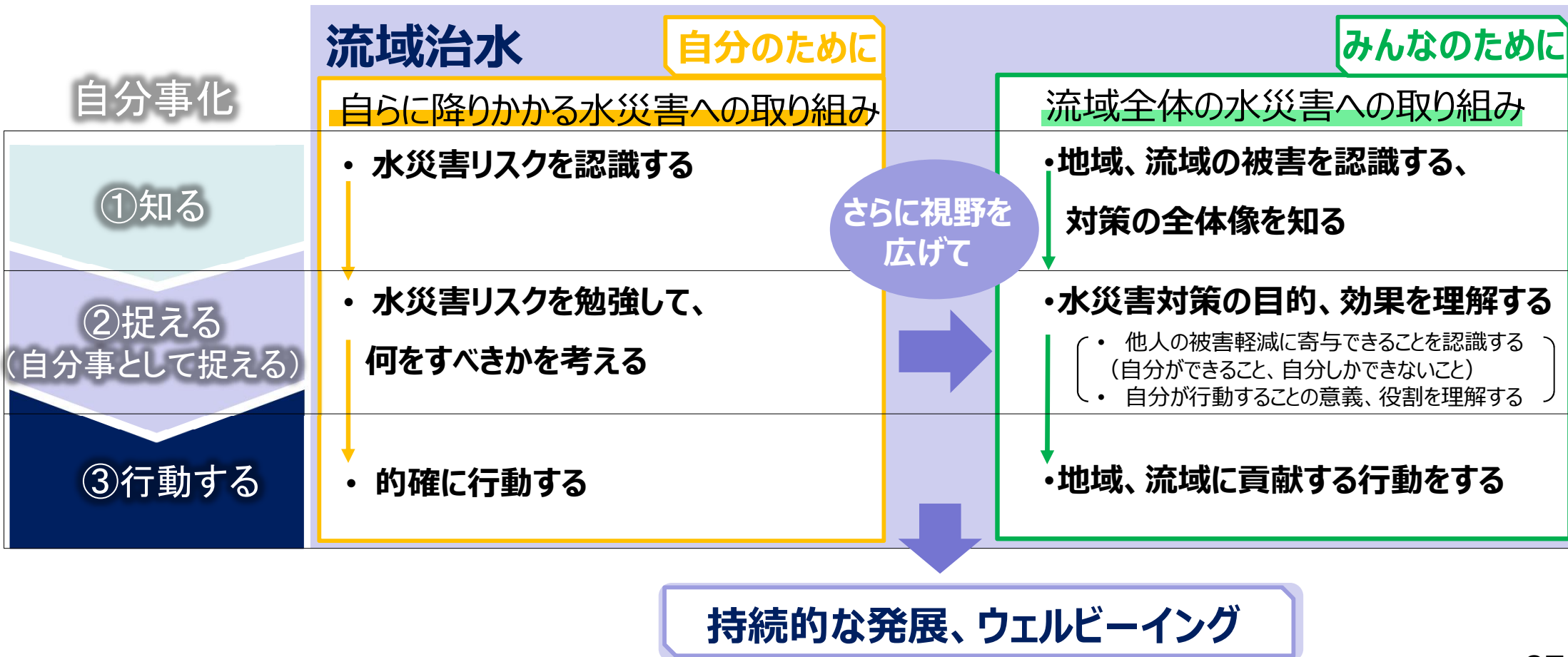
浸水リスクの高い地域における災害危険区域等の土地利用の工夫とともに、特定都市河川指定の検討を実施 など

- ・ 内水被害等軽減対策事業（仮称）に位置づけられた必須事業は、**重点配分等の予算的支援**。
- ・ **5年程度を目途に全国の内水被害常襲地域の被害軽減**を図る。



水災害を自分事化し、総力を挙げて流域治水に取り組む

- 住民や企業などが自らの水災害リスクを認識し、自分事として捉え、主体的に行動することに加え、さらに視野を広げて、流域全体の被害や水災害対策の全体像を認識し、自らの行動を深化させることで、流域治水の取り組みを推進する。



水災害を自分事化し、流域治水に取り組む主体を増やす 総力戦の流域治水をめざして

※社会がスローダウンすると自分事と感ずる。
(計画運休、休業、道路の通行止めなど)

1. 背景 (流域治水の推進)

by ALL の流域治水

2℃の気温上昇時、洪水ピーク流量は2割増(4℃上昇時4割増)。河川区域の対策だけでは対応できない。

流域のみんなで、自然、産業を含め文化として治水に取り組む。



- ◎持続的に開発しつつも社会的機能を維持しながら災害に備える二刀流方式
- ◎人と人、自然と人、自然と自然のつながり
- ◎流域を俯瞰した取り組み (山川海全部含めて流域治水)

2. 課題

水災害リスクの自分事化

住民や企業などが自らの水災害リスクを認識し、自分事として捉え主体的に行動する。

流域全体の水災害への取り組みへ

水災害から自身を守ることからさらに視野を広げて、地域、流域の被害や水災害対策の全体像を認識し、自らの行動を深化させることで、流域治水の取り組みを推進する。

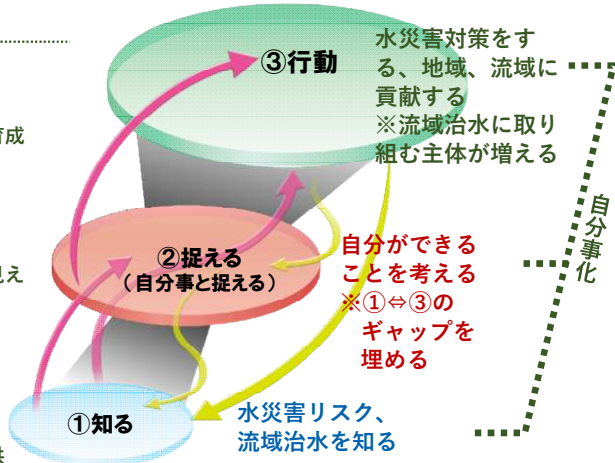
※流域治水に取り組む主体を増やす
(自分のためにから、みんなのために)

3. 流域治水に取り組む主体を増やすための取組方針

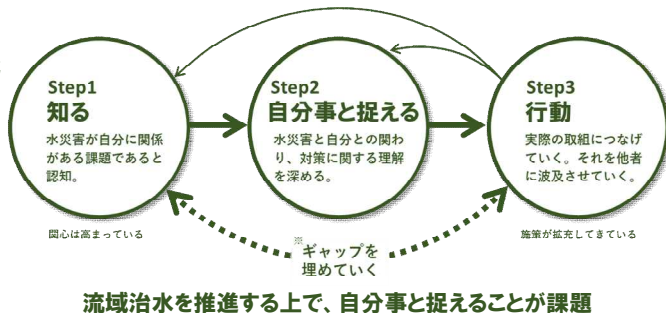
大局的には①知る→②捉える(自分事と捉える)→③行動の流れを作り、取り組みの幅を広げ、トップランナー育成や要件化・基準化等を通して流域にも視野を広げていく。

取り組みの例

- ・要件化・基準化
- ・トップランナーの育成
- ・流域治水への貢献
- ・ビジネスへの支援
- ・流域対策への支援
- ・取り組み、効果の見え方
- ・連携活動
- ・教育活動
- ・流域治水の広報
- ・リスク情報等の提供



意識の醸成を図り、**国民運動、日本の文化に**日々の生活の中で水害、防災のことが意識され、全国的に水災害リスクの自分事化が図られ、その視野が流域に広がり、社会全体が防災減災の質を高めるとともに、持続的に発展していく。



流域治水を推進する上で、自分事と捉えることが課題

4. 施策を進めていく上での着眼点と具体策

○ 具体施策

(1) 知っている人を増やすことと伝え方の工夫

- ◎気象条件を伝えるなど他人事化できない状況を定着
- ◎取り組みを促す相手の特性に応じて伝え方を工夫
- ◎インフラツーリズムとの連携など、知る機会を増やす
- ※ネガティブなことをおしゃれに、楽しいことを伝える。住民自らのモニタリング

地域 個人 企業・団体

- ◎流域治水ロゴマーク、ポスター
- ◎流域治水の日、週間
- ◎河川空間の利活用を通じた意識醸成
- ◎SNS等での情報発信
- ◎インフラツーリズムとの連携
- ◎ダイナミックSABO ○はまツーリズム推進
- ◎危機管理水位計、簡易カメラ、浸水センサー等の拡充・閲覧周知

(2) 自分事化の機会創出と手段

- ◎防災教育 (住民自ら記憶を伝える、行動を学ぶ)
- ◎水害伝承 (記憶の風化を防ぎ教訓を伝える)
- ◎学べるコンテンツ (ウェブ、既存メディア活用)
- ◎補助金、税制優遇等の支援
- ◎防災関連ビジネスの推進、取り組みのアピール
- ◎社会を良くしたいという動機、SDGs

地域 個人

◎ 防災教育の推進 (既存施策)

地域 企業・団体

- ◎地域に貢献する水防活動への参画
- ◎流域治水オフィシャルサポーター制度
- ◎防災・減災ビジネスの推進 (オープンデータ活用)

地域 企業・団体

- ◎取り組みの位置づけ、効果可視化 (デジタル活用)

◎ デジタルテストベッド

(3) 自分事化を促す相手の把握と絞り込み (発信側と受け手側の例)

- 発信側
- ◎キーパーソンのタイプ (盛り上げ、自然環境、研究開発、危機意識) + 河川ごとの特徴
 - ◎リーダーの育成 (防災士、気象予報士等との連携等)
 - ◎インフルエンサー活用

- 受け手側の例
- ◎防災教育に取り組む子供と家族
 - ◎高齢者、災害弱者、若年層
 - ◎リソースが不足している企業、建設分野他企業
 - ◎地域のコミュニティ
 - ◎金融関係機関

(4) 主体的な取り組みが進むための環境整備

地域 個人 企業・団体

◎ 共有プラットフォーム (全国流域治水MAP)

1) 取り組みを実行する仕組みづくり

- ◎きっかけは様々 (河川の利用や生態系保全の取り組みから始めることも)
- ◎課題の把握、取組事例の共有と分析、人と人をつなぐ仕組みの構築

2) 社会のモードチェンジ

- ◎ポジティブな情動、同調圧力も ◎国からの情報発信による環境整備から

(5) 持続的に流域治水を推進

地域 個人 企業・団体

- ◎トップランナーの育成
- ◎防災教育を通じて流域に視野を広げる
- ◎農業・農村地域での取り組み (水を貯めることに対する農家と水管理組織の合意形成、防災対策と農村コミュニティ機能の相互依存的発展)

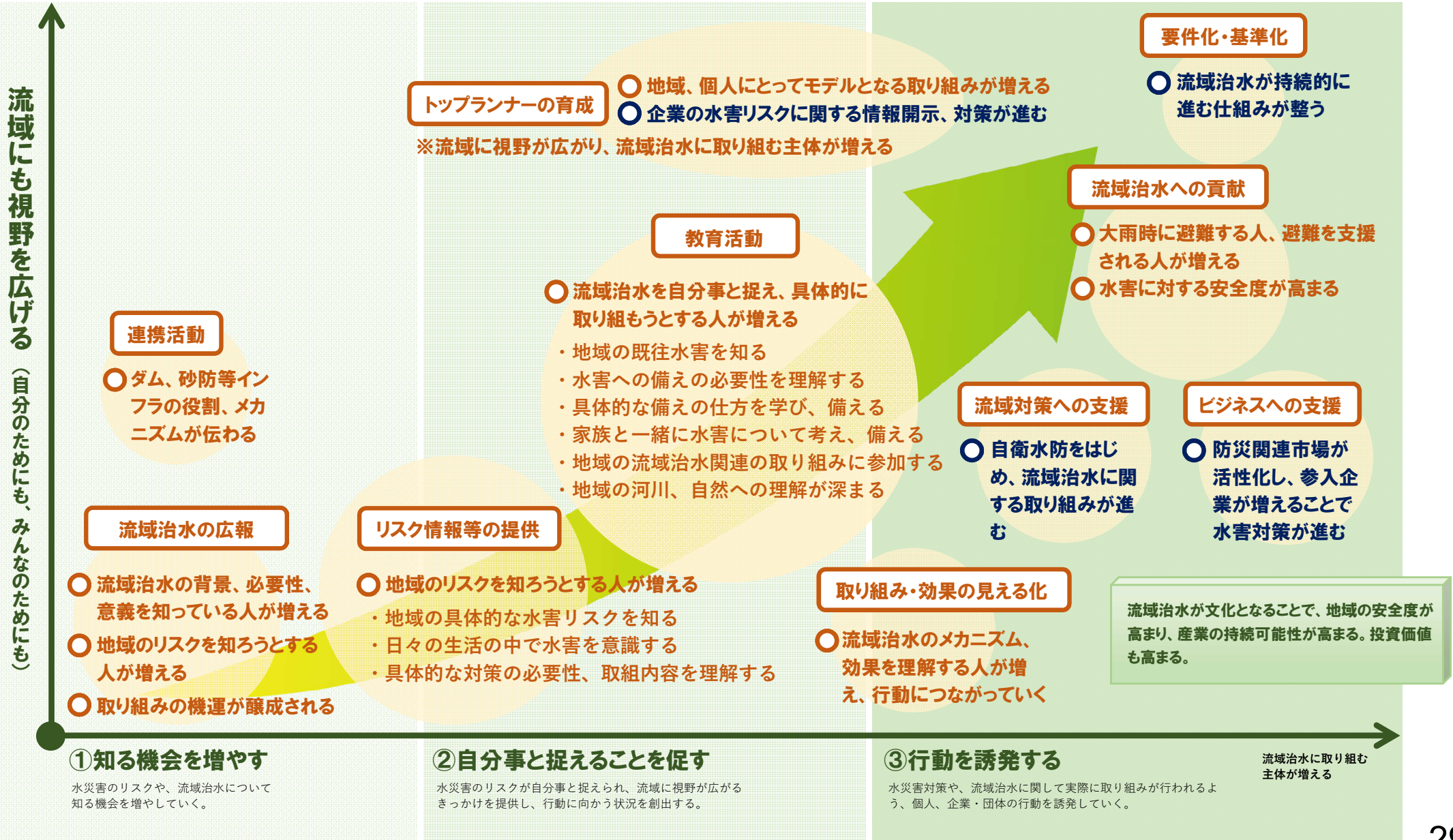
- ◎表彰制度 (流域治水大賞)
- ◎円滑な避難を支援する人材育成 (ファシリテーター派遣の仕組み)
- ◎気候変動リスク開示における民間企業の取り組みの支援 (TCFD)
- ◎防災教育に関する素材提供
- ◎水害伝承に関する情報 (コンテンツ) の普及・拡大

※各水系の流域治水プロジェクト等への反映とフォローアップ

5. 施策体系(目的、狙い)

○ 主に地域、個人に関するもの

○ 特に企業に特化したもの



5. 施策体系

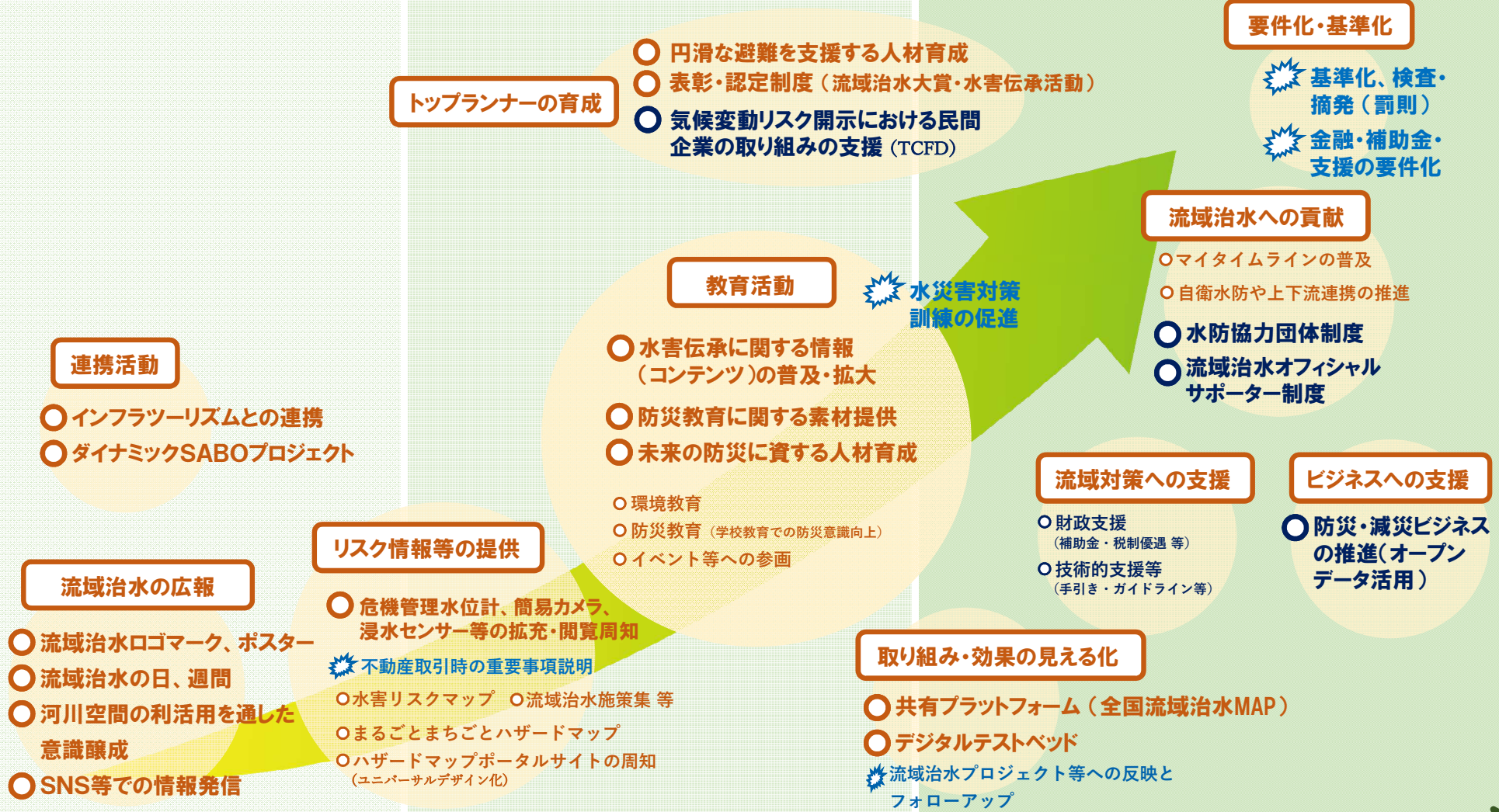
細字：既存施策
太字：新規施策

○ 自発的な取り組みを促す施策

○ 特に企業を対象とした施策

☀ 一定の強制力を伴う施策

流域にも視野を広げる
(自分のためにも、みんなのためにも)



①知る機会を増やす

水災害のリスクや、流域治水について知る機会を増やしていく。

②自分事と捉えることを促す

水災害のリスクが自分事と捉えられ、流域に視野が広がるきっかけを提供し、行動に向かう状況を創出する。

③行動を誘発する

水災害対策や、流域治水に関して実際に取り組みが行われるよう、個人、企業・団体の行動を誘発していく。

流域治水に取り組む主体が増える